

中央アジアおよびロシア調査野帳記録

Date	Locality	Remarks
1993-5-24	月曜日、晴れ 新潟 ハバロフスクは雨、70m	10:08東京から新潟あさひ309号。 14:00チェックイン、15:30発 17:30着、ホテル18:00(日本時間時差2時間)20:00ロビー集合、夕食。
1993-5-25	火曜日、曇り	アムール川に沿って40~50km、人口60万人。ダーチャ別荘は組合があって、借りる。大きな庭があり、野菜も取れる。2000円換金して、17730R。ホテル従業員の月給は一昨年20000R、今年は70000Rとなった。 9:30ホテルから市民会館。ハバロフスク市役所で市長に会見、土屋市長から趣旨説明を行う。木を切らないで、観光、観察についてはお手伝いできると土屋市長が述べたが、この提案にたいする反応は特にはない。11:00展示場、子供の館。12:00昼食後に散策。14:00ハバロフスク州庁舎。14~15:30街中の散策。打ち合わせ。夕方~16:00打ち合わせ。18:30barで歌を聴く。19:30夕食。20:30~22:30アムール川の散策、夕日は上流に沈む。 自然環境団体の協同組合を作っている。市長や国際課長は、エコツーリズムをやりたい。共同の活動については、連絡してくれれば協力してもよいと言う。明日8:00朝食、9:30出発、18:40のロビー、barで19:00民族音楽会、20:30夕食。 シベリアギョウザ(シビルスキー・ペリメニ)、ウシ肉:ブタ肉を半々に、ネギを包み込む。ルスキーペリメニより大型、水餃子も焼くことがある。サイズが異なるだけである。 サンフランシスコから来た老夫婦があり、歌を聞いた際にいた人たちであった。石橋さんは英語が話せるかと聞かれて、カザフ人だと答えて、信じられたようだ。私はマレーシア人になった。アメリカ人の曾祖父はマレーから来たと言ったが、本当かな。アムール河畔には大勢の青年が夕晴れを楽しんでいた。10時半ころまで明るい。公園には川灯台、銅像や破壊された大砲まであった。 子供の作品の展示、子供博物館も見た。色彩が明るいことで、偏見を訂正した。若い女性はミニスカートが多い。ジーンズの青年もいて、貧富差は拡大していると思われるが、充分ゆったりした暮らし向きと思われる。子供から手伝いで、200円、バッジ300円、など少し押し売りがある。その筋の女性もいくらかいて、100ドル/1時間、150ドル/1夜だそう。Barで誘われるそう。アムールを一人で泳いでいる女性がいた。170cm以上の女性がほとんどで、男女ともに大きい。

1993-5-26

水曜日、快晴、70m

6:40起床、準備。アムール川の幅はここで1.5~2km、遊覧船が数艘ある。砂浜は美しい。朝は6:00前から明るい。夜が本当に短い。

昨日、街で子供向けの小動物飼育パンフレットを買った。3Rくらいだった。マルクス通り、路上では、リンゴ、洋梨、ミカンを売っていたが、皆小粒で、痛んでいた。ハバロフスクでは、穀物はほとんど取れず、移入している。温室で、トマト、キュウリを栽培している。ジャガイモは多い。ウラジオストックの方は少し暖かいから、作柄が良いようである。

8:00朝食。10:07第2空港でヘリに乗る。96m。離陸、20人ほど乗れるヘリコプターである。湿地的なところでは、ガマやタンポポが生育している。眼下にダーチャ別荘が多くある。これで都市民は食料を繋いでいる。山地帯に入って、低山の麓は草地、湿地的である。部分的には標高差がないながら、土壤浸食を起こしている。ヘリコプター高度、650m~825m、タイガらしい森林が出てくる。裸地化した所がパッチ状に出てくる。細い道路は続いている。本数は少なく、自動車は見えない。自動車の跡であろう。北西方向に飛行する。10:52枯れているのか、まだ萌芽していない木もある。樹種は多く、10種以上はある。川に対して、ゾーネーションが見られる。

11:02陽ざしは明るい。右後方から大きな陽光、樹種が変化して、途中の川沿いに出てきたものが優占になる。伐採地での土壤浸食は起きている。著しい裸地となり、若干土壤が流れている。かなり酷い所もある。高度1500m、地面に対して、一定以上の高度を確保しているのであろう。動物の姿は機上からは発見できない。恐らく500mほどの山地にはなっただろう。2000m級の山々が前方視界に入る。数峰の山頂に、残雪がある。11:14、高度1600m、森林限界は1000mくらい以下であろうか。

1993-5-26-1

11:37着陸、1023m、ウルミ集落は900mくらいにある夏の居住地で、20人が住む。スズの産地。鉱山探査に企業職員10名がいる。イヌ3匹。ビクトルさん：地質技師、ジャガイモ、ネギ、赤カブを庭で栽培している。ボクタンさん63歳、空いている家を借りる。5月10日頃まで雪がある。北緯50.5度、通年暮らしている。小型のシャクナゲ、ツツジ、ヤナギは3種、マツ、カバ、ヨモギ、ネコノメソウ、葉が大きめのコケモモ、落葉カラマツ。山全体がスズだという。ロシアでは大きい鉱山らしい。山全体がモレーンのような石でできている。2000m。12:50、残雪の山を戻る。2060m。川はまだ凍結している。

1993-5-26-2

13:00、1208m。雨が降り出す。トドマツ林、キャンプ地を見てから、昼食。15:30、近くにHemelocalisの群落がある。

1993-5-26-3

14:40、曇り。381m、伐採地に着く。トドマツか、シラカバ少しある。Rubusは棘が多い。展葉中。鳥の声が若干ある。キツツキのドラムの後、チェチェチェ、チュルルー、チュアチュアチュア。3性異常。15:22発、オタマジャクシ、黒色、4mm。ネコノメソウが美しい。薄紫のスマレ、数個体、湿地、部分的に凍結のままである。トラックが来たので、離陸する。16:18、第2空港着陸、降雨。16:45ホテルに着く。130m、60分気圧が低下。雨は止んでいる。

1993-5-27

9:30バスで出発、市内の幼稚園に行く。3年前旧ソ連；200人→現在は独立採算制；30人。工場労働者の子供。13000R、収入の1/5程度。今は赤字状態にある。保母は10名、交代制、半分は会社オフィスに貸した。7am~7pm預かる。2~3歳、3~4歳、保育園、3歳以上で幼稚園。5グループ。保母と手伝いの2名で、1グループを見る。婦人は3カ月休暇、2か月有給、出産。その後1.6カ月はOK、無休で休める。掃除担当、手伝い、台所2名、医務室1名、総計20名。音楽の授業は週に2回。

教育大学4年卒業して養成。アパート2DK、3DK、国営から民営に変化する。10:20、200万Rで1DKが買える。月100ドル、最も安いもの、外国人が借りて、1DK、2DK。市内月給；夫10万、妻15万R。月給の3%がアパート代。公式には月給4~5万R、サイドビジネス15万R、合計20万R。白タクしかない。ホテルから空港は2000R、自動車をもっている人はアルバイトしている。市場で、肉は500R/kg、良い肉は2000R。11:40、ハバロフスク駅、森林公園、タイガの樹木を植えている。アカマツ、カラマツ、トドマツ、シラカバ、ダモ、トネリコ、カエデ、街路樹ドロヤナギ。

パンは30~40Rで買える。キュウリも2000R/kg。工場地区、火力発電所が3か所ある。左手、ガガーリン公園、記念植樹した。右手に農家、と言ってもそんなに耕地はない。大きい製粉工場、精油、サラダオイル、ヒマワリやダイズ、州の南部で栽培できる。家具工場は日本からの注文がある。左手、市電に沿って、病院、団地などがある。団地は3階建て、レンガ造りである。自由市場がある。夏は35°C、湿度100%、サウナである。

アムール増水、5m上昇する。ウラジオストックまで900km、中国国境まで30km、右手に基地、大きなソフォーズ、酪農、野菜。鉄道を渡る。カササギの街で、カラスはいない。リラやリンゴが満開。11:17、スタンドで花、ハツカダイコン、を売っている。シラカバ林が多い。共産党の前書記の別荘はまことに広大である。ボートが各家にある。漁をやっているのか？オウレンが多い。ダーチャがある。小屋もあり、十分泊まれる。路傍の溝に、スゲ科が多い。湿地にコウホネらしき黄色の花あり。ケマンの黄色花ある。シラカバ林が続く。ドロヤナギか、混合林。林床に白い花がある。

子ウシ2頭、今までに10頭観察。タンポポは路傍に多い。ハマナスに似た赤い花がある。前方の山は中国領。アヒル6、ウシ15。道を間違えて戻る。11:52、ポリショイ・ウスリースキー島の浮橋を見る。川は灰色で、波が青いので、渡れるのかわからない。黄色の花はキンポウゲ科か。直径40cmほどの巣が樹上にある。12:18ピオネール、キャンプ場に迷った末着く。その後、昼食をホテルでしてから、市役所に行く。三田さんと私は市役所に入らず、デパートに行く。その後、バザールに行く。さらに、ベリョースカへ行き、若干の土産を買う。

バザールの様子:朝鮮系の人々も多くいる。小分けにしたキムチが売られている。肉はブタ、トリ、シャケの燻製もある。マメの種子を買う。おつりがなくて、カボチャの種子、アニス?を100Rで追加する。エンドウ、ソラマメ、インゲンマメなど6種類を買って、310R。ソラマメは粒数、小さなマメはスプーン何杯で小売する。レタス、セリ科、ハツカダイコン、リンゴ、カンキツ、キュウリ、キムチ、朝鮮系。ワラビ、ギョウジャニンニク?架空人のこと、開花しておらず、直前の蕾がある、根はつけていない。菜っ葉、細いネギ、キャベツの葉、クルミ、アンズ(ナツメ?)、タマネギ、ニンジン。ヒマワリ、種子を売り手がリスのように、ポリポリ食べている。バナナも少しある。花はリラとバラくらいしかない。物品の量は多くはない。人出はまあまあであろう。場所取りでけんかもあったが、トランシーバーを持った警察が巡回している。

少し得体のしれない人もいるが、売っている人々はごく善良な幹事の人々である。市役所近くの路上で、ネギやニンニクを売っている爺さんには写真撮影は拒否された。ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、朝鮮、ナナイ人、いろいろな顔が辺境にいる。

夜はパーティで、市長、助役以下10名ほどが来訪。記者も2名、日本人の鬚について褒められた。その後、二次会で、アルマアタの登山家に会い、すぐに連絡して、協力を得ることにした。かなりの山に登っている人らしい。朝鮮と州政府の会議があり、この数日は比較的警備が厳しい。

8:00朝食。その後、荷物の整理。10:00前に、部屋を開ける。残っていたビールとあられを鍵係にあげる。11:00すぎにホテルを出て、日本人墓地に行く。墓地の縁には、スズラン、白いスマレ、カシワ広葉樹、サクラソウ、ナナカマドが生えている。合葬や個人葬で、200名くらいだろうか。最近亡くなった人のものもある。そのまま空港に行き、チェックインして、待つ。13:25まだ待っている。ルーブルRの持ち出しについては、今はうるさくない。価値の変動が激しすぎるからか。待合室は100人余り、老齢の日本人が多いが、若干ヨーロッパ系の人も交じる。商社マンらしい日本人も、かなりいるようだ。かなり顔の皮が厚そうなのが、そういう人なのだろう。皆、パンやビールなどを飲んで、待っている。3人の女性が小さな店を開いているが、かなり売れたようだ。緊張感がほとんどないことが不思議である。やっとジェットの音がしてきた。アセチレンが燃えるような匂いがしている。

新潟空港に14:00頃着く。昼食後、15:42の東京行きに乗る。17:00過ぎに東京に着き、解散。

Date	Locality	Remarks
1993-6-18	東京成田空港12:45離陸、モスクワ着	10:40pm頃、モスクワ時間で17:40に着陸。夏時間で、時差5時間。メンバーは北野、石橋、日比野、福留、叶田、須藤、木俣の7名。ホテルにつき夕食、19:30に寝る。T/Cは使用できないようで、のちに参加する、中込に現金で持参するように伝える。日比野によれば外貨ショップでは換金できるようだ。モスクワでは1箇所だけ換金できるところがあるという。
1993-6-19	モスクワ	8:30に朝食、9:00市内観光に出て、9:45クレムリン、軍人学校の卒業式で、コインを撒いていたので拾った。クレムリンを一周して、本物のレーニンを見る。10:35北京ホテルで換金する。MCは使用できるが、VISAは使用できない。12:00土産物店。
1993-6-19-1		タンポポ、アカシア、 <i>Agropyron</i> 。12:20モスクワ大学正面モニュメント、ライラックやマロニエはもう終わりで、少しの花が残っているだけであった。レーニン丘かた市街を見る。マトリョーシユカ屋が並ぶ。巨大な大学ビルにpopulusの種子が舞う。13:05ホテルに戻る。14:15昼食、kbacは造るのが面倒なので高いから、pepsiを飲む。Ryeパンは時々食べる。モスクワではイネも時々食べる。ジャガイモはよく食べる。14:33博物館に行く。15:45ピョートル大帝が夏を過ごした公園に行く。カシ林に大木ある。ハクサンフウロウ、チモシー、サルビア白花、オチャードグラス、red clover、 <i>Taraxcum</i> 、オオバコ属が多い。
1993-6-19-2		17:00 st.G Music Hall、土産物屋。
1993-6-19-3		植木鉢内の雑草を取る。 <i>Rorippa islandica</i> 未熟種子、ナズナ、ハキダメギク、シロザ、Brasiica weed、カミツレ。ホテルに向かう。17:30着、18:00夕食、19:00解散、ガイドブックを読んでから寝る。

1993-6-20

モスクワからウズベキスタンに向かう

5:00目覚める。6:00荷物整理、小雨から晴天になる。8:00荷物を頼んでから、朝食。その後ロビーで待つ。9:50ホテルを出て、空港domesticに向かう。都市上空は騒音や大気汚染のために飛ばない。左手の大学植物園は薬用植物を採るために造った。近郊には小さな畑があるが、ダーチャとは言わない。夏の別荘のことを言うので、もっと遠くにあるという。巨大な団地群が多い。所々に池があり、少しの人が釣りをしていた。リングロード、円周100kmほど。10:40牧草場が広がってきた。ユーカリに似ているが、カバノキか、道路両側に広がる。10:40空港に着く。13:15離陸。荷物は特に問題なく、側口からcheckinした。空港周辺にはダーチャが多くあった。15:34下は雲海、切れ目に見えるのは草地、荒地と思われる。広大な土地に集落は見えない。15:40アラル海上空を通る。砂嘴のようなものが見える。広大な砂漠が続く。沿岸には人家らしきものはない。多少の車跡らしきものがある。16:27大河が見える。16:42タシケントに着陸。緑なす畑が多い。列車走る。道路もよく整備されている。18:00夕食と夕涼み。23:00寝る。交流協会のMrs. が来て、visaを取ってくださった。大学の植物学者にもあった。明日9:00に来て、大学に行き、午後は交流協会に行く。最低限の予定変更をする。Mr. さんが加わる。

1993-6-21

タシケント

5:30に起きて、資料や標本の整理。8:30朝食をとる。9:00交流会から迎えが来る。大学スタッフも大学に向かう。Central Inst. of Plant Industry。グラジオラスを売っている、ピンク、赤の大きな花。左手に大きな果樹園が広がる。モモだろう。9:35ブドウ、サクランボ、らしい。街路樹はプラタナス。メロン少々、産直スタンドらしい。牛20頭、庭にバラ、ブドウ畑広い。(アエロフロートのリコンファームをすること。)糖度が高くワインを造る。*Allium giganteum*らしきもの庭に20個体。Dr. ウザクトウ植物学者、中国、アメリカ、フランスと交流連携して、農業研究をしている。Plant collectionをトルコ、アフガン、パキスタンでしている。ウズベクではここが唯一の研究機関で、5万点の系統保存をしている。アメリカで会合があり招待されている。Gene Bankは国際的な関係でRomaのIBPGRなどと進めている。共同研究を大いにやりたい。ビジネスや科学者の交流が欲しい。ビジネスと遺伝資源を結び付けたい。昨年、日本から2名が来た。カザフスタンに行く。農業、害虫の問題がある。農薬を30種類くらい使っている。有毒であるので、生態学の視点で、生物学的コントロールを研究している。ハホルーoil plant、space technologyにも使うが、皮膚に塗ってもよい。ステビア。午前中、研究所に行って、打ち合わせして、協力費1万ドルのうち4000ドルを所長に支払う。23日から出発する。

1993-6-21続き

タシケント

サクランボ他、果樹の遺伝資源を見せてもらう。アンズ、モモ、小粒であるが美味しい。ブドウやナシなどそれぞれ10の品種がある。ザクロは冬寒いので適さない。ウズベキスタン側の隊員は植物学者2名、運転手、料理人、子供14歳も含むか。自動車2台を予定、夜になってガソリンがないから1台に変更との連絡あり。帰途、石橋さんが暑さにやられ、バス中でトローチとアンモニアの気付け薬をもらう。一日、休息を願うが、対応に苦慮する。昼食後、15:00に交流協会に行き、ガイボフさん他数名のスタッフに会う。女性2名、男性2名、菅野さん。16:45デパートを見て戻る。その後、ロビーで菅野さん、Dr. zと話す。19:00に夕食を一緒にする。石橋さん、福留さんは食べなかった。20~21:30日比野君、須藤君と打ち合わせをする。10:00頃には寝る。Mrs. KOBLOVAに国際便の航空券を渡す。パウチャー原本のcopyを取り、1ふはMr. Anatolに渡していただいた。4名グループ、2singl, 1doublroomにした。◎トルキスタンホテル、日本大使館孫崎ウテル大使、日野耕治臨時代理大使。電話56-46-43、直通56-46-59、執務9:30~。14:30に2~3人で行く。taxiで北野、木俣が行く。エンバシー・イポニ4号室。入り口で門番の人に再度電話する。7月3日に大使と夕食。今夜、中込さんに電話する。中央電報電話局、時間指定してかけられる。ホテルはそのまま頼める。菅野さん日本語のテスト後に、日本語学科の学生数名と一緒に14:00ホテルに来て、バザールに行く。

1993-6-22

タシケント

6:00荷物整理。9:00朝食後、荷物整理。13:00昼食、14:00~日本大使館で孫崎大使に会う。その後タシケント大生とバザールに行く。19:00夕食。東京に電話、義父が脳梗塞で入院、かなり重篤な様子、多美子も心配して、大変なことになった。状況により、8月初旬に帰国するか? PALOV=0shピラフはjlra (クミンか) の香りで作る。ヒヨコマメHOXOT、イネ米ГYPYZ、スミヤース(中に肉を入れたもの、サムサと同じか)。ノンHOH。クルトKYPT、ミルク製品ボール状、上澄みを除き、沈殿物に塩を加えて、丸めて乾燥させる。キムザKHA、セロリのことか。

1993-6-23

タシケントから調査旅行に出かける。

5:00目覚める。6:00起きて日程を考える。荷物整理。7:00日ソ旅行社に電話しに行ったが、話し中でつながらなかった。○北野先生へ; ①7月3・4日頃戻ってくるので、ホテルで連絡可能。②航空券のこと、Kovlovaさんに確認してほしい。○叶田さんへ; 葉など、いらぬものは、種子や標本と一緒に、缶を買って木俣の名前で、ホテルのstorageroomに預けておいてほしい。鍵をかって、その鍵は日本に持って帰ること、合鍵は木俣が持っているから大丈夫。13:07~2919.7km、すぐにDr. ザキールジャン宅でシャンパンをご馳走になる。14:25Chimkentに向けて出発。375malt. 郊外に広がるソフォーズ(1966年)。14:35ユニサバード地区のマーケットに来る。クリーン写しますよ、笑ってください。パティスーンpatison、キュウリの種子。○福留さんへ; パウチャーpage1のキャンセル分証明書(3名)は取らなくてよい。ポプラ並木続く。まれに牛あり。15:20、2944km、カザフスタンに入る。すぐにHOHを買う。クロン、カエデの一種が街路樹。

- 1993-6-23-1 チムケント地区 2957km、457m alt. コムギ畑にオオムギ混入、Triticum aestivum、T. durumおよびHordeum vulgale。ヤグルマソウ、アザミ類、カラスノエンドウ。14:30草地も拡大で、ウシが少しいる。ヒツジ20、ウシ10。カザフ人は家の周囲で作物や家畜を飼っている。Goja乳清か、saltyで酸っぱい味。Caw、wheatの茹でたものか？
- 1993-6-23-1-1 2965km、Agropyron ssp. 開花中、標本のみ採集。馬はよく見る、さすがに大月氏国である。ヒツジ50頭。オオムギ畑広がるが、草地が多くなってきた。チムケントへ23km。
- 1993-6-23-1-2 3016km、480malt. oshの作り方。①油を熱する。米は別に水に浸しておく。②タマネギを炒める。③肉、ニンジンを加えて、さらに炒める。30分程度。④野菜が十分浸る程度に水を加える。⑤米を加えて、蓋をして20~30分煮てから、蒸らす。Кашка、Тфмезは良い綿が取れる。シルダリア、アムダリアから運河を通して、アラル海が縮小している。
- 1993-6-24 1993-6-24-0 3035km、411malt. Aegilops squarosa, Ae. umblatum, Agropyron spp. 7:53にcampsite出発。
- 晴れ 路傍のgrassland、ウシやヒツジ散見。オオムギ畑と草地が広がる。4車線のりっぱなhighwayである。アルマアタの交差点。8:05、3044km、チムケントに入る。バザールへの道を聞く。トロリーバスがある。自動車が多い。トルキスタン、ムスリムの聖地で、メッカに次ぐものという。
- 1993-6-24-1 3047km、413malt. バザール、スウォームという飲み物がある。Кожeミルクとコムギの飲み物。種子屋で買う。イネ科はトウモロコシ、モロコシ、ジュズダマ。ジュズダマ種子99粒の数珠、ムスリムが祈りを数えるのに使用する。
- 3051km、ガソリンを入れる。1リッターで90p、9:45発。エノコログサはタシケントにあったが、チムケントにはまったくない。工場で水を分けてもらう。トウモロコシ少し、5a。3060km、川を渡る。河原にウシ60。写真を撮るなど警察官が言った。Topkestanに向かう、Samapa行き約2200km。ムギ畑が出てくる街はずれ、草地が延々と続く。
- 1993-6-24-2 3090km、229malt. Борш, Borsh。昼食が長引き、ほとんど夕方近くになる。あと一回しか採集できないであろう。茶は旨いが、暑くて多少けだるい感じがする。空気は乾燥していて、風が吹くと涼しい。川辺の日陰である。段丘がある。キイチゴの上にシートを引く。イネ科は少なく双子葉植物が多い。未成熟の綿花畑が広がる。16:20発、トルキスタンまで122km。16:38、3102km。
- 1993-6-24-3 3108km、315malt. 17:14発、コムギ畑、Aegilops3種、二条大麦も少し混入している。
- Ууcтoк左手に湖がある。ウマ300頭、左折して湖に向かう。蚊が多いという。コムギ畑続く。3120km、220malt. カザフ人の家に泊まる。18:10草地が続く。池を見に行き、すぐに戻ってくる。家人に1000Rとガソリンを少しあげる。タバコを1箱あげたら、ウォッカが出た。

0shの作り方：①作り付けのかまどの鍋を洗う。米は別に研いで、水に浸しておく。②脂身を入れて15分くらい油を出す。③焦げた身を取り出す19：35。④別の油をたっぷり入れる19：38。骨付き肉は斧で割り、主客に食べさせる。⑤タマネギを入れて炒める。天ぷらを揚げるほどの油。⑥肉を切って入れる。火を強くして、よく炒める。19：46。⑦ニンジンを入れる。⑧一握りの塩を入れ19：57、よく掻き混ぜる20：03。⑨水をたくさん加える。時々味見をする20：05。⑩生米を入れて煮る。鍋に均等にならず20：23。時々掻き混ぜて、均等にする。味見する。火力を弱くする。⑪水を加える。⑫火を掻き回す。蓋をして蒸らす20：36。20～30分で出来上がる。⑬Kumisを飲む。酸っぱく、馬乳酒か。

6家族の集落。800頭のヒツジ、イヌ、ネコ、ウマ、ウシを飼っている。Mr.Seitov Sutybai。女性は夜客の前には出てこなかった。料理について若い母親に聞いた。写真撮影は断られた。

1993-6-25 晴れ

6：00におきる。朝食。

3125km、220malt。8：32出発。土壌についても知りたい、記録すること。草をブロックにして冬に備える。水路沿いには木がある。オコジョのような動物がいた。3129km、8：54運河で少し舟遊び。トゲ植物が多い。

1993-6-25-0

イスラクという草を採る。火に入れると健康に良い。ヒナゲシは稀。シルト、細かい白い土。3134kmで幹線道路に出る。9：40左折して、トルキスタンに向かう。M32ルート、ヒツジやヤギ150頭。草地ばかりで、畑はない。運河を越える。3152km、208malt。泳ぐ、自動車を洗う。

1993-6-25-1

トウモロコシ畑、灌漑している。畑の縁の雑草を採る。Panicumらしきものもあったが、ほとんどコムギ族であった。スベリヒユらしき草本あり。11：20発。

カカシ、ハゲイトウまれにある。灌漑綿作地帯に入る。用水路が縦横にある。3162km、トルキスタンへ64km、広大な機械化畑。黄色の花、ペルコー、oilcrops、nigaerseedかナタネ？の畑がある。トルキスタンへ52km、3175km。アシ原散見。

1993-6-25-2

3187km、トルキスタンの手前、25km。コムギ畑。35°C。Aegilops大集団である。12：30発。

13：00昼食、土壌名、チェルノーゼム、黒ではなく灰色の土。ウォッカを飲んで寝込む。16：00～18：00。

1冊目終わり

1993-6-25-3

同じ場所で採集。ベニバナ、アルファルファ、コムギ、綿の畑が広がる。ここで泊まり、明日、トルキスタンに入る。町の手前である。夕食後寝る、標本づくり。

1993-6-26

快晴

6:00前に目覚めるも、皆起きないので、寝そべって考える。まだ、8日しかたっていないが、日本はどうなっているのだろうか。義父の様子は？タシケントで電話できたら、中込氏に手紙を託すように言う。日比野君は頭痛というが、日射病か。石橋さんは何とか大丈夫なのだろうか。本日はイスラムの休日。トルキスタンに入る。8:00発、3200km、205malt。トルキスタンから約21kmの所を60km/hで走行している。草場が続き、まれにコムギ畑、アシが大変に多い。○ジャコフjarkof；牛肉ミヤソ、ジャガイモ／カルトシュ、キャベツ／カフスタ、綿実油の炒め煮。

ワタ畑、灌漑、水の過剰使用でアラル海が干上がる。暗渠にしたら、多少良いかも、表面積が広すぎる。左手、コムギ畑。

1993-6-26-1

3229km、206malt.。中央市場。キビ粉ソークカンカナは脱穀、精白、ボイル（水）、乾燥。チャやミルクに混ぜて食べる。キビ精白ソーク、Cok。TOLKOH。たくさん売っている。ラクダのミルクもある。ホーキモロコシの箒も多く売っている。

10:24発。Mr. ラヒムジャン宅で昼食をいただく。1393年にできたモスク、900年前。9月に祭り、チムールが来た。アフマティ・ヤサビー大学、3年前にできた。スペイン、フランス、いろいろな言語を教える。退職が早い、男性55歳、女性50歳、経済問題となる。年金生活になり、インフレが直撃する。アラル海の問題は経済問題である。面積減少で、塩分が風で飛んでくる。アラル海から400km、3t/ha（1989年）。作物が取れなくなる。

ChimkentBeer、1985年にゴルバチョフが来て、チェコと合弁か、ペプシなども入っている。ウォッカは時間でどんどん高くなってしまふ。10時700Rルーブル、19時900R、夜1300R。水浴びしたり、ウォッカを飲んで、一日を過ごす。

Camcaサマサ；コムギ粉で作ったドウの中に、タマネギと牛肉を入れる。クルミはロシア語でOpex、ウズベク語でヨンゾオク。シバルマック；ジャガイモ炒め、肉、ジャガイモ、ネギ、餃子の皮。ブドウはカザフ語で、uzum。スープはMACTABA；ジャガイモ、油、米、タマネギ、塩、トマト、肉。KULTミルク菓子。○バター：①水、牛乳、塩を容器中で上下に攪拌チャーニングして作る。材料によって名称が異なる。ラクダ乳はkimran、牛乳はairan、馬乳kumis。②上澄み乳清を取る。これを飲むと喉が渇かないという。左右に揺するより、樹下に攪拌する方が、楽である。おばあちゃん；3人兄弟、4人姉妹いる。家系図ある。写真を送ること。タシケントとは2時間時差がある。夜中にいびきをかいていて起こされた。互いに寝られなかったのだろう。ブドウ、スグリ、クワ、ジャガイモ、シソ様のハーブ、牛犬、小2頭いる。電動、手動水くみポンプ、竈は外、サモワールがある。

1993-6-27

快晴 93-6-27-0

Setaria viridis畑や庭の雑草で出てくる。種子標本を採ったが、泊った家に忘れた。Echinochloaspp. も少し出てくる。アオビユ。

3251km、210malt. 6:20タシケント時間。イスラムが復活しつつある。ほとんど草地、まばらな人家。6:55ムギ畑少し。前方に低い山脈、草地ばかり。左手に大きくはない湖沼がある。3280km、380malt. ウシ5、ヒツジ10頭。ケンタウの町、3284km、ガソリンを入れる。蜃気楼のような小さな町。何度か鉄道線路を渡る。狭軌道70cm幅。3289km、1413malt. 山地帯に入る。ヒツジ100頭、草原が続く。ヒツジ群れが散在、100~200頭。3303km、379malt. 左ヒツジ300頭。川原通水、きれいな水。少女がウシ5、ヒツジ20、ウマ5頭を見ている。小林がある。3312km。ヒツジ500+500頭。馬上の人と3頭のイヌ。

1993-6-27-1

3316km、428malt. ケンタウから32km。非灌漑地、コムギ畑、コムギとAegilopsの雑種らしきものがある。

8:30発。オイク村、ロバ、ヒツジ、ウマ少しいる。左手に小川と段丘70m、小モスクある。小溪谷を走る。所々に白色テント、パオがある。

1993-6-27-2

3328km、600malt. カザフ人のユルタが点在する。580malt. 山地帯の礫状地で、ザキールさんは2種のAegilopsを採る。標高による変異を見たい。道路近く。小川には緑色のヒル、魚、カエルがいた。

1993-6-27-3

9:40発。ごく一部に赤土があった。3330km、650malt. 峠730malt. 礫土。

10:00、ガマは湿地でよく見る。鉄鉾山か、ぼた山ある。右手、鉾夫アパート5棟、立派な建物。戸建てもあり、大きな集落になっており、病院やレーニン像もあった。道路を間違えて、引き返す。子供2人が小川で泳いでいる。3359km、11:20、農業用ダム湖、青いきれいな水、谷を堰き止めて、用水路を作り、少しずつ流している。木陰がなく昼食ができない。飼料ブロック作りに励んでいる。ユルタが散在する。平地に降りたら、広大な麦畑になった。前方に湖様に見えていたものは、直進しながら、来て、近づかない。ずっと草原で何も作っていない。舗装道路が終わる。11:50、3378km。チュマルガンの町に入る、3382km。埃に塗れた家々。ジャンプールには程遠い。庭にトウモロコシが生育中である。より乾燥した荒地中を走る。家畜は見られず、樹木は全くない。右手に低山、ユルタ。左手に小モスク、墓場。少し木が出てくる。3404km、537malt. 12:25、昼食地。14:15発、ジャンプールに向かう。時々、コムギ畑がある。

3429km左折、左手にまだ緑のコムギ畑が多い。右手は飼料パックが多い。キビもエノコログサも発見できないが、*Aegilops*は多く見られる。右手、コムギ畑。再び荒野が続く。15:10、3450km、530malt. ジャンプールまで196km、右折3454km、前面に砂の壁。左右に広大なコムギ畑。所々の土砂の山は鉾山関係か？3471km、500alt. 15:40、ジャンタス町に着く。小さい静かな町。日曜日のせいかもしれない。人通りが少ない。草地が多く、鉾山も地図にある通り、よく見られる。町並みはよく整っている。日差しは強いが、風は涼しい。たくさんのアパート、一戸建てもある。さらに、ジャンプールに向かう。ガソリンが無くなり、予備を入れる。メーターが壊れている。3503km、薄い草地ですらない。

16:48、ジャンプールまで135km、3512km、680malt. 土がブドウ色になり、やっとヒツジが100現れた。こんな所にもピオネールがある意味が不明で、冬用だろうか？町は近いのだろうか？母子用サナトリウムは宿泊できない。3527km。17:23、水溜りがある。砂漠化最前線の植物の生態を見ること。左手にカラタウ(黒い山?)市が見えてきた。草地のみ、ジャンプールまで100km、3539km、564malt.。左手に川、人家出てくる。3543km、3543km、17:40でガソリン入れる。予備タンクにも20リットル。カラタウウの町のホテルに着く。一泊を得て、洗濯をする。ビールを飲む。visaなしなので、もう一泊するかはホテルの主人に相談するとのこと。夕食はハンバーグ・ライス。同行者がテレビを見て、解説する。

標本は不要、種子だけが必要で、今夜半分ほしいということのようだ。急いでいるのは、成果を所長に示したいからなのか。部屋の暑さによるのか、まだ眠い。久しぶりにシャワーを浴びた。

1993-6-28 月曜日、快晴

4:00 (カザフ時間K6:00) 過ぎに起きて、主人の登場を待つ。7:00 (K9:00) 朝食、blini英語、ヨーグルトを付けて食べる。コムギ粉クレープに何かのジャムを包んでいる。一皿2個、リンゴジュース(カンブ)。ウズベク時間で統一記録する。このホテルで2泊する。

1993-6-28-0

U7:50、雑草*Agropyron*、*Aegirops*、不明の*Triticeae*、3548km、491malt.

1993-6-28-1

バザールに行く。イスラム化を進めている。モスク建設に力を入れている。レーニンの役割は何だったのか。4~5階のアパートが多い。マーケットの名前(ロシア語で説明ある)、朝鮮族婦人からキムチを買う。

昨日のサナトリウムの所に戻る。ゴム植物を探すという。小川周辺にあり、半日、これに費やすようだ。荒涼な土地が続く。なぜこうした所に人は暮らすのか。右折してサナトリウムの手前を少し入る。

1993-6-28-2

丘576malt. 10:30~。前日のサナトリウムの近く、キャンプ地周辺を歩く。ピンク色の花のオモダカ、タンポポ開花中、*Veronica*、小型のエノコログサ。ジター、楊様の木。実は心臓に良いという。その後、山河を越えて、小村に向かい、タバコを買って戻る。ラバー・プラントは発見できなかった。雨後、雨が流れるところに生えるというのが今はない。3時間ほど往復で歩き、ひどく疲れた。13:30に戻り昼食休憩をとる。15:15ホテルに向かう。途中のダーチャは素晴らしかった。町場の美人も多く来ている。池もある。ラズベリ、サクランボ、キャベツ、ダイコン。17:10夕食後、標本の整理。20:35風呂に入って寝る。

1993-6-29

火曜日、快晴

5:30に起きて、荷物整理。7:00朝食、クレープ、茶2杯。アイスクリーム(54R)、よく売れている。適度の甘さで、この地で食べるには大変に美味しい。半砂漠の小さな町に、混然といろいろなものがあって、ない状態が面白い。計画経済の意味を考えてみたい。タシケントに電話してから出発するという。Rahil息子は旅行が嫌だと言っているようだが、当然だろう。親が強制してもダメだろう、どこでも同じだ。Дж а м Ы л に向かう。トルコ系の人とウズベクは良い関係にないので、自動車のNo.でタシケントとわかるから、早く通り抜けたいという。

3605km、517malt. 8:47。出発、ジャンプールに向かう。少し戻って、幹線道路に出でる。日ごとに草が干しあがり、茶色になる。左折、3612km、本線に入る。カラタウルを出る、ジャンブルまで、99km(3616km)。左手に、湖3630km、周辺は緑だが、他はすっかり黄色。ステップ地帯。作物は全くない。羊も見えない。乾燥地。サラリーは安い、20000R。物価は低いので、暮らしやすい。ここは低い。パン10R。タシケントでは30Rする。湖畔は緑、水は明瞭な制限要因、左の幹線道路に来る。多少のダーチャがあった。池の畔にある緑の植物は何だろうか。

3662km、9:45まれに人家が現れる。水道パイプを敷設中、送電線が多いことが不思議である。街路樹が出てくる。3673km広いムギ畑ある。Н а д Ф з 村、緑が多い農村になる。3685km、10:10鉄道を横切る。サトウダイコンの畑が広がる。大きなムギ畑。左に鉄道が並行している。

1993-6-29-1

3695km、518malt. 10:20。オオムギ畑、二条ムギ2品種、六条ムギが混合している。10:53発。

ジャンブル、カザフスタンの工業都市のひとつ。煙突が多く目につく。左アルマアタ、右タシケント、前方ジャンブルの交差点、3703km。アルファルファの畑か？トウモロコシか。3709km、5901malt. 11:08、市内に入る。

1993-6-29-2

中央バザールへ向かう。にぎやか。韓国製の醤油がある。キビ製品：①精白、②煮る、③乾燥させる、④加熱、⑤ミルクとよく混ぜる、チャーニングする、⑥ ⑦磨って製粉する。

3713km、12:55、ビシケクに向かう。運河水を汲む。灌漑して、トウモロコシを作る。タラス川を渡る。アルマアタまで約580km、ムギ畑。直進はアルマアタへ、右下方向はタラスへ。トウモロコシ畑広い。ムギ類が多い。右手に鉄道が並行する。13:50、3751km、560malt. ガソリン入れる。ムギ畑が続く。

1993-6-29-3

3757km、567malt. 14:00. *Alium gigantea*、Triticeaeの別種。

14:18発、M39ルート。キルギス山脈には少し雪が残っている。赤茶色の土、麦類は完熟。

1993-6-29-4

3770km、605malt. 14:27. ビシケクへ214km。赤茶色のコムギ、長い芒が少し混ざる。*Aegilops*は街路樹の下に常にある。かなり多い。*Agropyron*もよくあるが、まだ未熟である。ライムギやエンドウは見つからない。*Panicum*も*Setaria*もない。

コムギ畑が広がる。延々と綿畑、クラン通過、3820km。右手、雪の頂は気持ち良かろう。ホテルは水が出ないので、また、野外で寝ることになった。この辺はドイツ人が多いという。トウモロコシ畑が大きく、緑野である。ムギ畑が続く。3863km。ビールを飲んでから、ガソリンが不足なので、後戻りする。タンクにK B a cと書いてあったが、中身はП и в о、冷たくて美味しかった。3864km、672malt. ガソリン入れる。16:40、500m戻って、再びビシケクに向かう。右手にキルギスの国境、緑山である。茶色の岩山とは違って来た。ビシケクの近く、キルギスの国境近くに野宿する。いつものイモ煮炒めを食べる。大麻が多く生育しており、採らないように注意する。

1993-6-30

水曜日、快晴

4:20起きる。カッコウが鳴いている。カンの襲撃がひどく、シェラフカバーとハンカチで防ぐことができた。5:00朝食、イモの残りとHOH。5:40発、3880km、687malt. ビシケクに向かう。トルキシユ人の住む地区、ウズベクとは係争中で注意、自動車を止めないようにする。4:00~5:00頃、ハイウェイを直行する。キルギスに入って墓の形態が変わった。ムギ畑が広がる。ウシ、ヒツジが多い。ウマとイヌで、50~100頭を追う。ロバも少しいる。M33ルート。5:58、3894km、698malt. カザフとキルギス国境、ガソリンを他国人には売らないらしい。

山の緑は濃い。手前はムギ畑だが、山の下にある緑は何だろうか。サトウダイコンもよく見る。ピンクの花が多く、ハーブ用の植物か。左手はアルファルファ、右手にはムギ畑が広大にある。ロシア人が多いので、地名もロシア語になっているという。レーニン像は健在である。キルギス通貨が変わったので、価格制御ができずに、変動がひどい。前方、ビシケクに向かい、右手はO m 方向である。白い山々が見える。ポプラ並木が続く。6:40、3930km、718malt. コムギ畑、サトウダイコン。キッチンガーデンにはトウモロコシ、ヒマワリが植えられている。灌漑地にはトウモロコシ、サトウダイコン。ロシア正教の教会もある。トイレ使用料は10コペイカ、貨幣が違うので、何も買えない。

1993-6-30-1 中央バザール、ビシケク。9:35、3980km、714malt. タシケントから1071km走行してきた。ウズベクとはキルギス1時間差。モロコシしかなかった。朝鮮族系の人が多い。ビールを飲んで、買い物を待つ。干魚も売っている。日比野君の友人には連絡できない。11:17発、買い物を延々と待った。その後、イトウ氏を訪ねたら、昨日帰国とのことであった。ホテル探しをしたが見つからず、昼食をすることにした。13:00レストランに入る。パンとうどんragman、ダイコン、ニンニクの芽、肉、タマネギ、カブが入っている。ピラフは肉、ネギ、など。ホテルMilitargをやっと見つけて、落ち着く。標本整理、夕食。

1993-7-1 水曜日、快晴。第3冊 7:50発、4008km、738malt. 本屋は開店休業、トラックにHonと書いてあった。農林庁のようなところで許可を取る。カジール氏が一人でスタンプをもらいに行く。バザールで朝食、ラグマンとノン。10:30、4019km、720malt.、ジャンブル方向へ戻り、山地域に向かう。10:21ハイウェイに乗る。タシケント方向。4030km。コムギは完熟、トウモロコシは未熟で、未開花150cm緑色が残っている。ベニバナ畑も広大である。10:24、4040km、706malt. で再び幹線道路に入る。完熟コムギ畑が多い。近郊では換金野菜も多い。クワで中耕する。まれにヒマワリもあるが、まだ播き始めである。

1993-7-1-1 4057kmm、692malt. 10:53。水汲み。赤紫色の穂Echinochroa、Setariaが畑中に少し混じっていた。バラ線があり、採集できなかった。農家のキッチンガーデンの中。ガマ生育。今のところ、Echinochroa、Setariaの雑草はキッチンガーデンと花壇の雑草としてしか出てきていない。何らかのキーがここにあるのだろうか。①他の作物の種子に混ざって入っているのか。どういう作物とか。②生態的な条件をここに求めているのか。スイバの枯れた植物体がよく見られる。

4083km、740malt. オシ方宇面へ左折する。警察官を乗せる。国境まで約8km。ムギ畑が広がる。ヒツジも多い。トウモロコシ、ジャガイモが少しあり、開花中。4102km、1091malt. 左折して研究所に向かう。ムギはまだ緑色で、かなり未熟な状態である。研究所が不明なのか、すぐに戻る。4105km。

1993-7-1-2 12:20、4110km、1198malt. 植物採集、昼食。オマツクさんの月給60com/6月給、また値上がりして69com。コムギ、3c55k/kg。キルギスは何にも産業がないので、大変である。15:28、4110km、1311malt. 降りてすぐ右手、1180malt. Botanical Instituteの小さなセンターに来る。大変に美しい草原であった。オートバイデートの若い二人の邪魔をしてしまった。

1993-7-2

金曜日、快晴

オオムギのKbacは薄茶色で、少し酸っぱ味がある。10ha薬用植物を管理している。結局、薬用植物園の中で寝ることになった。夕食はピラフ。ウィスキーを出したら、一気飲みされてしまった。味や香りは関係ないのである。月給の数倍あるものを一気に飲んでしまうのだから、工業アルコールと何も変わらない。キルギス山脈は、つまり越えられずに、このままタシケントに戻るようになった。草刈りの人たちから翌朝、キルギスの食事について聞き取りする。星、月は美しい夜であった。

5時前から草刈り、男5人、男児1含む。食事について聞く。一緒に写真を撮った。また、いつでも来いと言われた。東原さん似のよく日焼けした青年もいた。ラマシキ：ロシアの人が好むキク科の白い花、恋を失ったら、この花も枯れるという歌詞。8：45発、4112km、1248malt. 丘を下る。ジャンブルへ向かう。水汲み、植物学研究センターにて。良い水だと言っていた通り、薬草があるから、若い男女がサイドカーで汲みに来ていた。9：03、4134km、750malt. タシケント方向の幹線道路に出る。道路沿いにダーチャがある。新築中や壊れたのやいろいろである。ここは大変な工業都市で、研究所のこのバスもキルギス製である。空はかなり汚染されている。

9：14、4142km、752malt、列車本体が来る。ビート、コムギが多い。9：37、4154km、714mカザフに入る。M39をジャンブルに向かう。広大なムギ畑が続く。

9：37、4154km、714malt. カザフに入る。M39をジャンブルに向かう。広大なムギ畑が続く。キルギス山脈は左手に続く。少し赤みのある土。トウモロコシ、数10ha、警察に止められ、免許証を見せる。カザフ人の若い男性はいまだに馬に乗るのが好きで、ウマは実用のような。10：40、ジャンブルまであと113km、4225km。地区境の監視所で止められる。今回は頻繁である。10：53、44236km、716malt. 左手に雪山がまだ続く。コムギ畑が多い。ウシやヒツジを入れない一部地区らしい。ムギ畑広大。コンバインで収穫する。ガソリン入れる。4259kmで鉄道と交差する。半乾燥の草地、耕起してあるが、何を播くのだろうか。M39は鉄道と並走。70km/hバス、雪山は右手へと消えてゆきつつある。

タシケントまであと362km、4275km、右手にムギ畑。所々にドライブインがある。ジャンブルまで59km、コムギ畑が多い。チムケントのバザールでキビを購入した。大きな種子袋100リットルほどに満杯であった。緑の林が散在している。交通量は多くはない。延々と黒い道が伸びている。山は砂丘に吸われて無くなる。ムギ畑続く。大変な炎熱である。薄茶色、白っぽいのはコムギ、広大にある。大型コンバインで収穫している。よく乾いている。火が付いたら全部燃えそうだ。トウモロコシも出てくる。10haくらいある。アスファルトが溶けている。

1993-7-2-1

未完熟の晩成品種のムギも稀にある。タラス市を通過、もうすぐジャンブル市、牛50頭。子供が用水で水浴びしている。30m幅の川を渡る。キッチンガーデン中に、少しモロコシらしきものがあった。鉄道の陸橋を渡る。テレビ塔が左手に見える。小さい子の結婚式、ウマに飾り付け、。4337km、600malt. 12:30昼食。マンティ；餃子の大きなもの、小麦粉の皮に牛肉やタマネギなどが入っている。

ジャンブルマーケットによる、バザールでモロコシの種子を買う。前回よりも人出も、物も少ない。靴を買う。レモンを買ってもらったが、とても高く、1個600R、黒海の方からの移入しているという。悪いことをしてしまった。13:40、4339km、611malt.

タシケントまで245km、左手にまた雪山が見えてきた。山容が独立的である。コムギ畑が多い。牧草地、遠景は乾燥した丘、ウマがはねられていた。丘のふもとまでコムギ畑、トウモロコシ畑は少ない。耕起してある所が多い。低い低山に入る。4377km、838malt. 両側は丘、草地ばかりである。左側は雪山、並行して川、草地が広がっている。路肩にはナノハナの類が多い。ビーツは生育中。スイバの仲間が多く、結実中である。前面に雪山が来る、3000mくらいはあるだろう。山頂に雲がかかっている。左はアルファルファ。14:50、4404km、1041malt. ムギはまだ青い晩生、ほぼ熟している。

15:03、4417km、1098malt.、カザフ国境監視所、牧草地多い。白いタチアオイがまた目に付くようになった。明日ホテルに電話する。A氏が一緒なら、日曜日に出発。X氏に代わるなら、月曜日に出る。明日、K氏が所長に相談する。タマネギなど野菜畑、近郊農業か。カンゾウの花はよく見る。庭用か。左手は小さい川が並行して緩やかに流れる。右にユルタがある。ウシ50頭。寄生ツルが多い。15:44、4447km、654malt. アスファルトは溶けている。畑に野菜が多い。トウモロコシ畑に、モロコシの混入がある。左折、川を渡る、4554km。トウモロコシ畑にはモロコシが入っている。少しだが開花中である。コンバインでコムギを収穫中。

4465km、鉄道を渡る。左右ともに、コムギ畑。緩い起伏の丘が続く。トウモロコシ畑にかなりモロコシが入っている。湿地にヨシが再びたくさん出てくる。16:14、4475km、665malt. また、監視所でひっかかる。刈り取った後は耕起するのか。タシケントまで、148km、4477km。インターを巡り、鉄道線路と平行して、チムケントに向かう。4496km。タチアオイの大半が白花、稀にピンクがある。右側、コムギ畑、完熟。左はムギ、続いて右側はトウモロコシである。チムケントに入る。16:50、4504km、542malt. である。街中では散水車をよくみる。冬の寒さが信じられない。

アヒル20羽。タシケントへはあと110km、タシケントへは110kmくらい。左にベニバナ、右にアルファルファ、コムギ。タシケントへ92km、ヒツジ400頭、馬上人4名。母土は赤い。コムギ畑は広大にある。タシケントまで58km、18:18、62km、アルファルファ畑30ha、タシケント郊外の住宅地に近く。ウシ100、ヒツジ50。ガス欠4592km、561malt.

1993-7-2-2

幹線道路の路傍に、逸出キビ1個体を見つけた。Setaria viridis、Echinochroa spp. 一緒に生育していた。18:45。

1993-7-3

土曜日、快晴、満月

7:00起きて標本整理。9:00朝食、Kajiljan氏おいでくださるが、お許し願う。10:00~11:00中間報告会、標本整理。学生4名の話聞く。12:30孫崎大使とウズベキスタンホテルの17階韓国レストランで昼食、石橋さんは不調。途中、イスカデル氏が来訪。その後、東日学生2名と3名で本屋に行く。アイスクリームを食べる。夕方は標本整理。夕食後、学生4名とINCHのこと、探検部のことを議論する。

福留さん：家族構成を調べた。叶田さんが植物採集した地点で、食事。家の中の写真を撮影した。バス車中から、家のスケッチをした。トルクメンでは定着して放牧している。衣服もスケッチ、モスクの装飾、埋葬方法の違い、短命20歳くらいで多くが亡くなるが、長命は90才くらいまでである。コーラン本も採集する。日比野君：子供のことを中心にみている。3人に聞いた。羊追い、川遊び、11歳のラヒールを通して聞き取る。教育制度がこの数年で変化してきた。トルコの制度を入れてきている。タシケント教育大学を、後半に訪問して、聞きたい。研究所の幼稚園も観察するつもりである。叶田さん：ワタの畑が多く、生育中。コムギは完熟している。トウモロコシも生育中。キビやアワは全くない。アマランサスは1個所、食べないという。食文化、本は数冊あった。ノン、プロフ米、サマルカンド、カスピ海の西岸からくる。アシハバードでも作っている。須藤君：植物採集をしていて、植生的には似ている。

バザールの女性は今風である。キジクムはサクソウル樹木で緑化を進めている。人為的に入れている。カリウチェカ、マメ科のトゲ植物、ラクダが食べる。アツケシソウのような植物が少ない。塩生植物を取ってほしい。

1993-7-4

日曜日、快晴

6:30標本整理。第一旅行の収集植物リストを作成する。9:00朝食、アナトール氏に日程変更を確認する。10:00にイスカデルさん他学生、菅野さんら来訪する。小生以外は市内観光に出かける。引き続き、リストの作成を行う。14:00昼食、リスト作成。叶田さんの標本整理。中込氏は連絡良好、第1周はアフガニスタン国境に行き、8月1日以降はこちらに任せるといふ。20:00シャワーを浴びて、早目に寝る。

7:00起床。8:30朝食、9:00北野先生らは出発する。タシケント大学から5名ほど見送りに来る。宿泊日の変更は確認。Kajil氏の来訪を待つ。10:40発、タシケントからレニナバードに向かう。Kajil氏宅で昼食をいただく。11:40、4911km、480malt. 第2旅行に出発する。Kajil氏、運転手、木俣、日比野、須藤の5名のみである。Akceleibiyは中国からの来客で参加しない。

鉄道の陸橋を渡る。50℃はあり、今がピークという。道路は混んでいる。4924km、440malt. タシケントの境界の川の橋を渡る。大きなバザールがある。ナンを買う。プラタナスの街道を南下する。ワタの畑が続く。トウモロコシ出穂している。コムギは収穫されている。ほとんどワタの畑である。12:22、4932km、トウモロコシの生育は良い。モロコシ混ざる。S. halepenseか？左はイネか、まだ若い。ワタ畑ばかりだが、トウモロコシ畑も少しづつ出てくる。乾燥で良く取れていないようだ。右手はタマネギらしい、3ha。Sorghum halepenseが多い。4951km、430malt. タシケント海seaは人口湖。ワタとトウモロコシが多い。キビらしい作物が出てくる。果樹園、ブドウ、スモモ、アンズ。

トウモロコシ畑周辺にモロコシが出てくる、サイレージにしているようだ。アルファルファ畑少し、右手に水田がある。セイバンモロコシが多い。ヒマワリ畑も多くなった。ムギ畑、20ha。13:37、5003km、338malt.、タジクに入り、チェックを受ける。ビザなしだから、お金10万Rを出して通してもらおう。ガス欠、レニナバードに向かう。ウシが点在。前面に裸の山々。ワタ畑が多いが、人家近くにある。雑草モロコシが多い。アワらしき実生を少し見た。写真も撮影に反対のようだ。内戦中だから、人気が少ない。右折して、レニナバードに向かう。5017km、345malt. トウモロコシ畑にセイバンモロコシが多い。バス内は42℃、35%rh、母岩が露出した山、上昇していく、475m。35歳の男が乗る。カパシャ人口5万人。草地が続く。山腹に町がある。半砂漠。ヒツジや家畜が見えない。左手にムギ畑が出てくる。狭い盆地中を走る。昼食後すぐに税関に行く。16:05、5049km、608malt. レニナバードに近づく。母岩の丘と草地、木がない。何故、町の山肌が白いのか？トウモロコシ畑。セイバンモロコシが著しく多い。左右にアンズ果樹園、クワやプラタナスが多い緑の町に入る。チョウセンアサガオDatura白花、15個体。また、警察のチェック。美しい街に入る。大きな川でまちが二分されている。

16:50、5073km、372malt. まれに家猫がいる。町の中でホテル探し。庭にヒマを始めてみる。エノコログサ出穂始めている。友人宅31歳に招かれて夕食をいただく。シリアで働いていて、10倍の給料だから、4年働けば、あとは楽だという。祖父はタジクの首相であつたらしい。高級アパートで、町の中心にある。クーラーも入っている。息子2人は両親の所にいる。7月16日に兄弟が結婚するので、招待されることになった。この時間で、23時に寝る。

1993-7-6

火曜日、曇りから晴、風が一日中強い。4冊目

6:00起きて荷物整理など。頭と腹が少し痛い。ウォッカのせいではないかと思う。8:00近くのカフェで朝食。スープにオオムギ粒が入ったもの、コーヒー、カンピー。8:15、5073km、321malt。マーケットに行くと思ったら、また、警察に止められた。バザールに行く。

1993-7-6-1

キビをたくさん売っていた。アワは見られなかった。草刈りの手カマは日本と変わらない形態であった。ナンの飾り穴あけ器、赤ん坊用小水排泄器を買う。12:15、5082km、362malt。レニナバードが出る。夜間外出できない。右に、鉄道と平行する。カカンに向かう。ワタが多い。キビらしき苗があった。ブドウが多い。左に巨大な湖がある。鉄道。延々とワタの畑。トウモロコシ畑もよく出てくる。アルファルファか、果樹も多い。アンズが多い。時々、若いイネ科植物がみられる。アプリコット樹下のイネ科植物がある。ワタ畑が続く。①トウモロコシらしい、白い紙の鳥よけがある。②モロコシらしい、厚播きだから、キビやアワではないだろう。

左に鉄道が並行、5162km、400malt。で交差する。パタル町。5166kmでウズベクに入る。小さなメロンを2か所で売っている。左は鉄道、右はコムギ畑。

1993-7-6-2

昼食の所。5183km、403malt。エノコログサが多い。ヒエ属も少しあり、生育中なので標本にする。コムギ類が見られないことが不思議である。

15:00発、麦刈りは終了している。用水に沿ってクワが植わっている。楊の大木が多い。幅80cm~100cm、スズカケノキもたくさんある。左手はアルファルファ収穫中、トムシャ町、トウモロコシはよくあるが、これこそキビやアワという畑は見られない。左はトウモロコシ。すぐにガス欠。ワタ畑ばかりで面白くない。ヒマワリ少し、ホウキグサが多いがまだ開花していない。麦刈り跡は点々とある。ワタ畑では、2~3名の男女が中耕していることが多い。15:43、5205km、420m。ガソリン入れる。春2か月蚕を育てる。4月20日から始める。トウモロコシは開花中が多い。時期を変えて、何回も播く。厚播きだから、ウシの飼料であろう。

夕食はラグマン、カツレツ・マカロニ、ビールは2杯飲んで、起きていられずに、22時まで寝た。シャワーを使って、再び寝る。標本整理は行う。冊子2部もらう。道具、ノンの穴あけ器、小水排泄器男女児用。

1993-7-7

水曜日、快晴

ビールは悪酔いした。脈絡のない夢を見ていた。5:00目覚めるも、ごろごろしている。7:00発、5213km、413m。コーカンドのバザールに行く。水・日が大規模で、人出が多い。バスを連ねてきている。

- 1993-7-7-1 モロコシはスープに入れて食べる。10:07フェルガナに向かう。お針子さん9人、男物の仕立て屋。ノンのローリング・ピンと調理用手袋、ナイフなどをかう。移動式タンドールを見る。
- ワタがウズベクの主要産品であったが、いろいろ作る方向に変化しつつある。5221km、開花中のトウモロコシ畑が多い。アルファルファはサイレージ用。右手に運河、多量の水。左手の分岐へ入る。不明のイネ科畑、イネか？ワタばかりの畑。モロコシ、ホウキグサの籐、メロンは丸型が多い。甘かった。果肉はよくしまっていた。穀物市場；トウモロコシ、コムギが多い。精白したモロコシもたくさんあり、スープに入れて食べる。赤米もあり、かなり売っておく、何か特別なことと結びついているようだ。
- ブドウは小粒で干し葡萄用である。左右に麦刈り跡、20ha。ワタやトウモロコシ、広大な畑。左手は畑と街並み、右手は半乾燥地と丘陵。町の近くは果樹が多い。11:27、5285km、40m、ガソリン入れる。
- 1993-7-7-2 少し標本採る。雑草モロコシ、クワの実は大きくてうまい。ウシが2~3頭。幹線道路上で、メロンを売っている。
- フェルガナに入る。ホテルに入り、2時間休み、バザールに行くが、小生は行かずに標本の整理をする。この盆地は人口密集地、綿作ばかりが多い。若い人はサマルカンドなどに働きに行くという。
- 1993-7-7-3 フェルガナのバザール、穀物屋は閉まっていたが、本は入手出来そうだ。
- イワシ缶とパンを食べた。ここで、こういう物を食べるとは思わなかったが、シャシリクもプロフも油だらけで、暑さの中ではしんどい。全体に気だるさは残る。夢ばかり見ている夜だ。暑いからだろう。メロンを食べて寝る。他の4名はトランプに興じる。明日は0shに向かい、野宿だろう。8時発。
- 1993-7-8 木曜日、曇りから晴れ 少し涼しい。6:30起床、荷物整理。ノート付け。8:00発、5310km、580m。フェルガナはプラタナスの多い町であった。
- 麦刈り跡、20ha。ウシ30、ヒツジ30。
- 1993-7-8-1 5319km、590m。8:46。コムギ畑で、3品種混合。Avena、エノコログサが多い。コムギは収穫期である。
- 1993-7-8-2 5325km、572m。①モロコシとトウモロコシの畑：ヒエ属、エノコログサが多い。②コムギ畑；別に記載あり。この辺はモロコシが幾分多く目につく。

5328km、556mお茶を飲む。他は準備できていない。9:55発、再びOshへ向かう。クワや果樹が多い。アプリコット。ワタは見られなくなった。湿地にガマの大きな集団。キッチンガーデンにシソを見る。ワタ畑、クワが多い。左手、トウモロコシが庭畑に多い。ワタ+クワは年間作業上都合がよい組み合わせか。大きなウシ飼場がある。税関の検査場所。10:20。5348km、533m、街路だけでなく、クワ畑がある。ウズベクから最短距離でOshに入る。少し山に入る。トウモロコシが多い。牛舎がある、200~300頭。ワタにクワはどうもそうらしい。

左手は果樹から砂山に変わる。ムギ畑2ha。ポプラ並木の村、Hemelocalisノカンゾウが庭にある。川辺にヨシがよく生えている。トウモロコシが多く、キビやアワは全く見えない。オシまで45km、5369km、590m。

1993-7-8-3

10:45、マルハバド町、バザールで、モロコシを買う。サムサもタンドールで焼く。昼食後、オシに向かう。11:40発。

ウズベク国境を問題なく通過、キルギスに入る。警察はいなかったので、チェックなし。何かの干葉がよく見られる。ダイコンか？何に使用するのか？小さな水田がある。まだ分けつ初期で、草丈10~15cm。タバコの畑も開花中。トウモロコシもある。山に登る。軒に丹念な彫刻がある家。5379km、742m。もう少しでオシ。タバコ、ワタ、ヒマワリ。ムギは収穫期、トウモロコシは未開花。白いタチアオイがまた見られる。ムギ畑が続く。アルファルファが多い。小さな水田が少しある。5390km、940m、通過。コムギと雑草モロコシ、キビらしき畑がある。ウシ30。コムギ畑。左手には岩山が続く。ムギ畑が多い。あと5kmでオシ、5400km、940m。小バザールでブドウを買う。

コムギ畑、5403km、954m、オシに入る。ダマスカスに似た町と言う。真ん中に川のある中規模の町。バザールに行くが、特に何もなく、砂糖を買う。5405km、922m。14:20発。ワタ、タバコ、立派な家が建ち始めている。50km、アニジョンА и ж о н？コムギ畑、すぐに国境に至る。クワ、トウモロコシ、ワタ。左右にワタ畑、果樹園もある。道端で乳製品や花を売る。ワタとクワが多い。15:23、5441km、654m、カシマトフ・ビル。この地区では、研究所の分所の主任宅に行く。

研究対象；①ワタ、②ヒツジとウシ、③コムギ、主に2品種、④トウモロコシ、マックジョハラ、サイレージ用、種子もヒツジやウシの飼料にする。6x1列で、雑種F1を作る。品種名はウズベクライステス。⑤ジャガイモ増産の努力をしている。キビもモロコシも作っていない。鳥害に会うので、作らなくなった。

葉の作り方：チャイニーズ・マッシュルーム、砂糖小さじ5.5杯、干し葡萄10～15粒、水2リットル。健康に良い。3日後に飲む。冷暗所保存。リュウマチ、関節炎に効く。結局泊ることになった。オランダ人を連れに行った。ニンニクはチーズの息。ミントはペリメニに入れる。シロザは春のビタミン不足を補う。スベリヒユはアルメニア人がサラダに使うと言う。アマランサスは葉のみをペリメニに入れ、種子は利用しない。ブドウは生食することも多い。ライフォンは小さく切って、スープに入れると良い香りがする。

○マスタバ：ヨーグルトを入れて食べる。スープに米が入っている。ジャガイモ、肉にライフォンを入れる。比較的淡泊な味の雑炊である。ライフォンの香りが肉の匂いを消しているのだろう。シソ科、シソではない。○ヨーグルト、ミルクを煮て、少しスターターを入れて、包んでおき、3～4時間後には出来上がる。夜間には雨が降った。

1993-7-9 金曜日、快晴

5443km、643m。6：45発、支所に行く。ワタと野菜、果樹の研究をしている。トウモロコシは春播き早生、秋播き晩生。ここではワタの収量は4t/ha。ジャガイモ。新聞記者が来て、給料などについて聞く。所長、所員と話す。ブルガリア人は来たが、オランダ人、中国人、日本人は初めてである。オランダ人のジャガイモ研究者は栽培の普及をしている。再び朝食をして、出発する。

1993-7-9-0

5448km、650m。溝辺にタンポポが多い。

9：20発。ワタやクワの畑。小から中規模の面積の畑、灌漑はしている。トロリー・バスは中以上の都市には必ずある。トウモロコシ1ha、ワタ畑ばかりが続く。丘陵部、モロコシ、トウモロコシが多い。その下の平坦地にはワタとクワの畑がある。左手に段丘がある。山の麓は果樹。プラム、洋梨、リンゴ、皆、小粒であるが、味は良い。小さい水田がある。まだ、幼苗期。モロコシ草が時々ある。モスク建築している。5472km、493M、中規模のアンディジャンの町に入る、建物は煉瓦と泥で作る。電話をしに行く。スイカを売っている。矢筈模様のワンピースはどこに行ってもいる。角帽子は田舎では多いが、都市では少ない。

1993-7-9-1

バザールに行く。ラグマンとマンティイの夕食を食べて、標本を整理して、寝る。

1993-7-10 土曜日、晴れだが雲がある

6：00起きて標本整理。朝食後、アンディジャン・ホテルを出て、ナマンガンに向かう。めし屋は9～18時が多い。8時では茶しかない。このバザールはそれほどにぎわってはいない。9：04発、5481km、511m。トウモロコシとホウキグサは至る所にある。カボチャが開花中。どの家にもブドウ棚がある。5487km、4881m、ナマルガンへ60km。ワタ畑、数名で中耕している。ほとんど草は生えていない。果樹園も多い。

ワタのほか、トウモロコシの栽培もある。モロコシが稀にある。ワタ畑の周りにクワの木が必ずくらい植わっている。ワタはそろそろ開花期に入るようだ。景観としてはワタ畑にポプラとクワが典型的と言える。山地は見えない。雑草モロコシがよく出てくる。アカシア白が盛期。左手にアルファルファ畑、ワタと3年輪作。数haのトウモロコシ畑もある。ナマルガンに38km、5518km。ガマが干してあった。果樹園の下草はオオムギ属の雑草が多く、今は枯れだしている。小さい街に入る。アマランサスが街路の花壇に多い。水田1ha、1区画、5 x 6mくらい。狭い、まだ分けつ初期くらい。

ウシは点々というが役畜だろう。モロコシ栽培は登熟期、ナマルガンへは18km、5527km。ブレット川渡る。幅50m。水田ある1ha。ワタ畑。市街地に近づく、あと11km。花壇にヒマがある。自動車はノッキングをよく起こす。水田で除草していた、5名の女性。右側はトマト畑、路上販売が多い。さとyダイコンの畑もある。臭いから堆肥を施しているのだろう。これから何を播くのだろうか？温室5棟ある。また、ガソリンを買うことができない。ガス欠で2時間待たねばならない。10：30、5542km、431m。

1993-7-10-1

と王モロコシ畑、Echinochloa、Setaria の雑草がある。女性は白いショールを付けている人が多い。特に、年配者。

1993-7-10-2

ナマルガンのバザール、モロコシのみを買う。野菜とスパイスしかない。

庭地にはハキダメギクが時々生えている。本屋に行く。5548km、468m。12：13、コーカンドに向かう。5556kmで市街を出る。トマト畑が多い。ワタ畑ばかり、ムギはすでに刈り取られている。ガソリンスタンドは何か所も休みである。昼下がりのルートを上る。川を渡る。ワタの畑が多い。5575km、左へ回る。すぐにアマダリア川を渡る。ワタ畑ばかり。イネは少しある。ウシ15頭。5578km。昼食はまた、ラグマンを食べる。

13：30発、コーカンドに向かう。アルファルファ畑。ガソリンスタンドはまた閉まっている。左手に用水路、水量は多い。右手奥に丘が見える。雨がないうちで、十分な灌漑によって、塩分は蓄積しないのだろうか。用水路にガマが多い。麦の刈り取り跡、トウモロコシは結実中である。水田、3ha、10haある。水田を見ると、湛水したままで、イネの分けつは少なく、雑草はほとんど生えていない。9月末から10月に刈り取り。コウノトリが電柱上に営巣しており、その数はかなり多い。ワタ畑が続く。モロコシ畑が少しづつ出てくる。5606km、416m。

1993-7-10-3

右手に鉄道、左手にムギの刈り取り跡、モロコシの畑は時々ある。14：30、5620km、419m、警察ステーションでまたチェックされる。ナマルガンとフェルガナの市境。

ガソリンスタンドはまた休み、どういことになるのやら、心配である。5625km、ガス欠、ノッキングがひどい。予備ガソリンの最後を入れる。キッチンガーデンにはトウモロコシが多い。5635km、443m、農業ステーションで、ガソリンを恵んでもらう。責任者とは今夜会うらしい。結局、旧友宅に行き、飲食し、今夜は泊るといふ。友人の父81歳の家。キビがあるらしいが、保存場所が不明。以前はチャイハナによく行ったが、年を取って行かなくなった。日比野君不調、風邪ではないか。須藤君もシャキッとしていない。

1993-7-10-4

タシケントでは、赤米は祭日に使う。1月2～3日は赤米を売っている。この地では日常的に使う。

1993-7-11

日曜日、快晴

6:00バザールに行く。ブワイダから5～6km、カカンから15km、朝食。友人の父の、友人宅にそのままついて行く。5561km、422m。

1993-7-11-0

バザールの特設売り場。穀物の販売量の順位。①トウモロコシ、②モロコシ多い、2～3品種、③コムギ、④キビ（アワか？）は少し、⑤マメ類2種。種子屋ではスパイスなど少ししかなかった。

1993-7-11-1

老人宅はコレクト・ファームに選ばれており、ブドウ畑8haをもっている。

12:15発、コーカンドに向かう。犬2匹、一緒にもらう。ワタ畑が多い。モロコシ地帯というが、それほどでもない。キビらしい小さい畑（苗）があるが、確認できない。アルファルファも多い。ガソリンは買えずにいる。コーカンド市長助役に頼んでやっとガソリンをタクシー会社で、60リットル分けてもらう。これで山越えに向かう。5689km、440m。14:18発。

市街を出ると、ワタ畑、タシケントへ235km、5697km、山地帯へ向かう。かなたに山影が見える。土は細かい粘土様である。右手に、トウモロコシ畑、左手はほとんどワタ畑、稀にトウモロコシ畑がある。5709km、411m、トウモロコシが多くなり、アルファルファやワタ畑もある。路傍でスイカやメロンを売っている。ワタ、トウモロコシ、アルファルファがそれぞれ1/3ずつ栽培されている。タシケントへ220km。

440malt. トウモロコシ、雑草モロコシ、ヒマワリ。すぐに川幅100mを渡る。路傍でトマトを売っている。460m、果樹が多い。ムギの刈り取り跡、土は礫が混じっている。550m、ヒマワリ、タマネギ、ムギの収穫期。610m、コムギ畑、草地が広がる、646m、5729km、乾燥地。コムギ畑よりも草地が多い。715m、トウモロコシ畑は少しある。Avenaが出てくる。805m、アルファルファ、ヒマワリ畑少し、大半は草地。雪山が少し見える。914m、草地のみ、乾いた礫地、植生は少ない。1008m、草地の一部にムギ畑、草丈が高い。オオムギか？ヒマワリ畑少しある。警察によるチェックを受ける。15:20、5740km、戻れと言われたが、何とか通過する。右に小溪谷、乾燥で草地のみ。1036m、谷間に畜舎と小さな畑があり、不明の若いイネ科が栽培されている。ヤナギのほか、ノコギリソウなど広葉草本がある。1251m、5746km、小集落がある。小谷沿いに、トウモロコシか、1a、ミツバチ養蜂業を見る。1383m、ジャガイモ、アルファルファ、少し。ヤギ2頭。子ウシ2頭、トウモロコシ少し。1551m、小ダム、575km。ウシ4、ウマ1、緑濃い草地になる。1651m、ポプラの小森。ジャガイモ少し、3a。山に小木散在、ヤギ150、ウシ40。1742m、小リゾート地だろうか。ウシ2。1870m、ウマ6。1930m、トウモロコシは生育不良、1aのみ。2005m、ノバラ、シソ科草本が多い。2140m、貧弱な草地。2190m。

1993-7-11-2

2200m、峠で採集する。5770km。オトギリソウが多い。白花タチアオイをよく見る。ビロードモウズイカの類。

1630m、養蜂業、牧草地になっている。コムギはまだ緑、タチアオイがとても多い。1360m、ロバ2、ユルタ2張、ヒツジ300、間食する。1115m、こちらは大変美しい川に沿っているリゾート地。18:40、母岩が赤い。湖水出現、タシケントまで、118km。石灰の露天掘り。工業都市。アニデンに入る。ホテルで寝る。

1993-7-12

月曜日、快晴

6:00起床。8:00アングレン。5831km、906m。

1993-7-12-0

路傍。小さな盆地状の町を出る。

薄紫色の花の雑草がたくさん咲いている。パキスタンでも見た。山裾のムギ畑。トウモロコシ畑には雑草モロコシなどが多い。ヒマワリは少し、タマネギやトマトがある。ダーチャは30~40ある。花壇にはバラをどこでも見る。果樹園、最も多いトウモロコシ、アルファルファ、ブドウ、プラム、リンゴ。ウシ5、ウマ2。

5844km、810m、コムギ畑の収穫期。コムギ族雑草が多くなる。ジャガイモかトマト。ウシ4、アルファルファが多い。鉄道を横切る。石炭火力発電所2か所。ウシ6、ヒツジ30。コムギ刈跡、アルファルファ、果樹が多い。クルミもある。トウガラシなどの野菜も庭にある。右手に鉄道と並行。市街に入る。5870km、558m。トウモロコシが多い。ビーツもある。市近郊には野菜畑が多い。アングレン川を渡る。ダーチャ50。

工業地帯、新しい2階建ての家が建っている。5882km、コムギ、野菜の畑があるが、畑地は少ない。右折してタシケントに向かう。5885km。巨大な土盛、何の工場なのか、肥料か。畑が広がってきた。ケナフ、ワタ？トウモロコシも多い。ウシ5、100、ヒツジ20。コムギ畑を見たいが、朝食前で、止められない。広大なワタ畑が続く。除草が徹底している。畑中にはほとんど雑草がない。完全な条植えで、灌水している。村中の細い道を通る。5907km、390m。ワタ畑ばかり、トウモロコシ少々、アルファルファ、タマネギも少し、ジャガイモは開花中。クワ畑、雑草モロコシ多い。

タシケントへ70kmの所で、ブカ方向に左折する。ブカを工業都市にしようとしている。人口急増中。地区長は、ザキールさんの父の兄弟の子=いここで、彼に頼んで、ガソリンをもらう。5924km、340m。12：12発、延々と、ワタ、トウモロコシ、アルファルファの畑が続く。ビーツが少し間作されている。コムギはすでに刈り取られている。クワ畑は広く、ヒマワリ畑も時々ある。彼の末娘と昼食、結婚の丘に登る。

13：45発、シルダリアに向かう。5945km、300m。幹線道路へと同じ道に戻っている。5962km、290m。14：23、末娘宅に犬を預けて、次は叔父宅に行く。その後、やっとシルダリアに向かう。14：50、5971km、288m。右手地平までワタ畑、グリスタン方面に向いている。シルダリアを渡る。150m幅。コムギ収穫跡、T字路で右折する。5977km、右手にトウモロコシ、左手は湿地。イネか、トウモロコシか、かなり多い。右手は河岸段丘、水路に*Echinochloa* spp.が多い。

1993-7-12-1

5988km、270m。用水路creekのヒエ属、オオムギの刈跡。15：30発、湿地にガマが多い。トウモロコシ畑が多い。縁には雑草モロコシ、エノコログサも少しある。

直進するとタシケントだが、サマルカンド方向に左折する。5014km。果樹が多いが、ほとんどはワタ畑である。トウモロコシも出てくる。ブドウ畑。6028km、警察に止められる。2人が乗り、すぐに降りる。トウモロコシは少し鳥にやられている。ワタ、アルファルファ、トウモロコシ畑の景観ばかりである。稀にヒマワリの畑、イネ50ha。数haを水没させて、塩分を洗っているという。用水路沿いに、水田が帯状にある。ギョリュウのようなピンク色の花の灌木が目につく。ずっと、ワタ、トウモロコシの畑。イネを移植しているらしい所がある。

サマルカンドへ162km、5097km、275m。まったくワタ畑ばかりだ。やっとムギ畑の刈跡があった。良好な生育のオオムギである。果樹やアルファルファも出てくる。穀物研究所が近くにあるようだが、訪問は帰途にしよう。前方に低い山影が見える。ワタ畑が続く。時どき、ムギ畑跡を焼いている。右手にジザク市がある、6109km、338m。草地、コムギ畑が多い。乾燥地域に近づきつつあるということか。市街地近くにはトマト畑が多い。右折して、ジザク市街に入る。6124km、ジザク・ホテルは断られて、インツォリスト・ホテルに行く。外国人だからか。

ウズベキスタン・ホテルに泊まる。標本を整理してから寝る。調子が悪いので、タイロン2錠飲む。腹が痛い。

1993-7-13 火曜日、快晴

7:10起床。8:00発。6134km、360m。サマルカンドに向かう。空気が汚れている。丘が良く見えない。町並木はプラタナスとポプラが多い。権力を誇示するためか、どこに行ってもモニュメントが多い。シンボル、人物像、トラクター、戦闘機など。サマルカンドには旧道を通っていく。トマト畑や果樹園が多い。左手の川は泥水、トウモロコシの小さな畑、クワも少しある。タチアオイのピンク色が多い。

1993-7-13-1

6150km、490m。路傍に、コムギやカモジグサが生育している。ティムール門の手前、落書きだらけの岩場。8:37発、すぐにM39に合流する。ビーツやムギ畑は大きくはない。ブドウ園。狭い谷あい、幅1kmもない。サングリ川にヒツジ100頭。右手は川から鉄道に変わる。中耕は女性の仕事である。

9:40発。6162km、510m、朝食後に出る。スズカケノキの下、涼やかな風、お茶・・・この地区は暖かいので、三毛作もできるという。ワタ-コムギ、トウモロコシ-野菜。ムギは収穫期だが刈られていない。低い丘の上にはコムギ畑、灌漑していない地域、コムギ畑のみが両側に広がっている。中遠の丘には何もない。ウシ30、ヒツジ200頭。ブドウ畑が両側に多い。6202km、サボイに入る。ムギ畑、クワもある。リンゴ園もあるが、ワタ畑も少しある。感想はしているが、野菜畑は続く。タバコ畑少し、キッチンガーデンにはトウモロコシ少し、香辛料もある。かれたベニバナ畑は小さい。サマルカンドに近づく。

6225kmでサマルカンドに入る。10:45、6225km、680m。農業部へ行く。所長の話では、ワタを減らして、再び他の穀物を増加させている。その穀物の中に、キビが含まれている。昔は良いパンをキビで作っていた。12:30~13:30、休憩してから昼食、15:00に農務部に行く。その後市内観光、メドレセ3か所。

1993-7-13-2

バザール、キビ2品種。赤粒と黄色粒早生、4~7月で同様に熟し、収穫できる。鳥の餌という。人間の食べ物ではないと言い張るが、それなら2品種を区別して、バザールで売っている理由が分からない。

1993-7-14

水曜日、快晴。午後に雷が鳴ったが、雨は降らなかった。

17:40、電話しに戻った。国際電話は3日もかかるという。信じがたい状況である。電話できなかった。サマルカンド地域ではキビを栽培していない。明日は穀作地帯へ行くという。ラファエルさんはタタール人、夫人は朝鮮人、トウモロコシの専門家という。

6:30起床。サマルカンド・ホテル。8:00発、6263km、708m。街中で朝食をとって、菓子パン2個とコーヒー2杯飲食する。ラファエル氏他1名参加して調査に向かう。9:20、6270km、714m。

アワは70日くらいで熟す。今年は雨が多くて、生育が悪い。キビは暑熱や乾燥に強い。150系統あるが、外国のものばかり、日本の系統も欲しい。陸稲。キクイモはサイレージにする。3~4回刈ることができる。トウモロコシは中国から入れている。エノコログサとヒエ属が生育している。

ヴァヴィロフ研究所のスタッフ、数人の記名あり。植物教員12名、技術員6名。チックピーの研究、高収量、早生の新しい品種を育成した。他にも2品種ある。フォーレージににもしたいし、種子も取る。灌漑により収量は3倍になった。開花の研究で、2変種の雑種を作る。*Triticum durum*の研究は10年前から行い、新品種を作っている。収量はサマルカンド地区で、5~6トン/ha。灌漑するとよい。イタリアから導入した。9~10月に播く。飼料として3回取れる、100トン/ha。品種名あり。ラファエル氏から1913年発刊の古い作物の本をもらう。旧ロシア語である。サマルカンド地区：ワタ畑が半数、穀物は灌漑と非灌漑で栽培されている。ワタ畑が続く。ビーツ畑は少しある。

1993-7-14-1

11:25、6303km、600m。トウモロコシ畑の雑草。ガス欠になり、すぐ近くのコムギ畑跡地で落穂拾いをする。

ワタ畑が続く。大変に埃っぽい。コムギはほぼ刈り取られている。ワタとクワの複合はここでも同じ、アルファルファとヒマワリの畑もある。Иш т х о нに向かう。右折して小道に入る。6332km、511m、研究所らしい所に着く。12:20。責任者が留守なので、10km先のコレクト・ファームに向かう。ワタが多いが、トウモロコシ畑もある。集会が行われており、ここで3時間待つ。サマルカンド農業部と農科大学の説明がウズベク語で書かれている。

アラル海の乾燥化によって、タシケント郊外の気候が著しく変化してきている。ワタの収量が減少してきている。15:30、コレクト・ファームに行き、今日はここに泊まる。プロフを作る時の油、綿実油ではなく甘い。コレクト・ファームの長はプリザナル氏、120万haのワタ作付け、100万haの穀物作付けである。この地区ではワタは2000ha。スザマキア氏はコレクト・ファームの責任者。収穫祭はすべて終了した秋に行う。

キビはタローグ・プロソ。コムギの跡地に雑穀を播く。モロコシも同じである。Mapus、tapukタローグ、キビ。1haのキビを栽培している。鳥が食べるから作る。昔は食べた。1930年以降はワタ栽培になった。キビはミルクと混ぜるKamaにした。子供用には大変に良い。カザンの中で、ミルクと混ぜて、穀粒を煮る。塩を少し入れる。分量は人によって異なる。①収穫、②脱穀、③精白、④堅杵で搗く。粉はパンにする。ミルク・サトウ粥。ウズベクとカザフの呼称の比較がある。地元の普及員か、フルダシア氏が加わる。キビの植物体をマットに入れると体が強くなる。鳥の餌にする。

キビは5月に播種し、10月に収穫する。手で刈り取り、脱穀し、風選する。ここには4~5人の情報が入っている。老女の話も含む。キビからは6種の調理を作る。①スルゲヌーチェ、②シュラ、③ショルワ（スープ）、④カーシャ、⑤マスタバ、⑥ナン。シュラ②ハカザンに油と水を入れて、キビ、タマネギ、塩、肉、ニンジンを入れる。プロフに似るが、水と油が多い。15分ほど肉が煮える。その後煮る。ナン⑥はキビとコムギの粉を混ぜて作ることもあった。スルゲヌーチェ①は、カザンの中で、ミルクで煮て、バターを上のにせる。男性55歳くらいの情報で、よく整理されている。

1993-7-14-2

子供のマットレスに精白粒を入れると、小水が早く乾くので、良い。心臓病にもよい。Pabiはごはんのこと。

1993-7-14-3

10時頃から夕食、ウォッカを飲む。夕方はファクトリー主人、10時頃まで多忙ながら、ウズベクの経済について議論する。率直な意見を述べる。10数か国に行ったお役人なので、比較ができるから、議論になる。

1993-7-15

木曜日、快晴

7:00過ぎに起床。朝食、町役場に行く。9:04、6428km、510m。モロコシの研究所により、ナボイに泊まる予定。ワタ畑の間にトウモロコシが少し入る。同じく果樹園もある。クワは畑の縁にだけある。ヒマワリは少なく、キッチンガーデンのみか。

50m幅の川を渡る。6401km、クワ畑、50a。ウシ20、ヒツジ少ない。ラファエル氏は降車、バスでサマルカンドに戻る。名刺もらい、礼状を出す。CYMはミルク。

オマール氏宅6471km、キビは鶏にやるという。レニングラード大学の院生。6448km、504m。ブハラまで185km、6451km。子供案内を乗せて、バス停で、モロコシ研究所に向かう。ワタ作が多い。ムギ畑はまだ刈り取っていない。

1993-7-15-1

6462km、480m。カッタクルガン。ヒエ属、エノコログサ属を採集する。キビとゴマをもらう。トウモロコシの育種家、今でもコミニストだという。

1993-7-15-2

研究所で、モロコシを20系統もらう。

12:34発、13:53発ブハラに向かう。ブドウ畑が多い。トウモロコシ畑も出てくる。アルファルファやワタ畑が続く。止まらないで進む。6506km、448m。ワタとアルファルファ畑ばかりが続く。6524km、415m、警察に止められる。税関の境界だという。

ワタ、アルファルファ、トウモロコシの畑が続く。ムギは収穫されている。この地域にも、Aegilopsはない。右手に、モロコシが少し2aある。ヒエ属とモロコシ属の雑草はトウモロコシ畑に多い。6536km、400m、乾燥した丘が右手に見えてきた。湿地にガマが生えている。6542km、ナボイに近い。まだ、ワタ畑が続く。両側の丘は乾燥している。6553kmで市内に入る。エノコログサは多い。モロコシは少しある。不明のイネ科2種、ヒエ属かキビ属、あるいはモロコシ属か。クワ畑もかなりある。牧草地になる。ブドウ畑がある。6561km、ワタ畑は減る。

左手に空港、ヒツジ150頭、きれいな草地になっている。6581km、343m、右手、急激に乾燥草地、よく乾いている。いよいよ砂漠への入り口か。ヒツジ300、200、200頭がいる。ムギ畑跡はまだ緑色である。モロコシ、ワタ畑はまだある。雲が少し出ている。右折、ワタ畑が広がる。16:20、6602km、288m、昼食。17:30発、ブハラへ行く。ワタ畑が続く。M37ルート、自動車少ない。ワタ畑が続く。白い粉をやっていた（意味不明）。ワタ、トウモロコシ、アルファルファは少ない。薄紫の花はミントを栽培しているのか。ホーキモロコシがキッチンガーデンに少しある。左手はサツマイモか不明。ワタとクワ畑ばかりが続く。ポブケントに入る。アマランサスはよく見かける。トレーラにブドウやリンゴを山積みしている。モロコシ畑1~10aがある。ワタ、アルファルファ、トウモロコシ畑が続く。ブハラまで13km。右手はムギ刈り跡、ワタ畑が続く。

砂漠に近い気配はない。モロコシ3a。左折して市街地に入る。ワタ畑、果樹園、ブドウ畑も多くなる。6663km、240m。18:35、オマール氏の家か。友人の家、キビ（モロコシか？）16系統をもっているが塩害で発芽が困難。種子をもった人が2名いる。アワもあるらしい。ヒエ属はウシの餌で、人は食べない。

夜まで大変だ。ハードワークがと言ったら、ザキール氏はたいへんに怒った。気持ちは感謝するが、押しつけがましいことにどうしていやだと言えないのか。この部分は、ウォッカの接待が過剰なことについてであったと思う。

6:00起床。洗面、荷物整理。まだ体調不良。日中座っていることが多いからであろう。ITはやめるが、ウォッカも1杯だけにしたいものだ。ザキール氏も疲労がひどいのだろうか。さて、本日はどんな日になることか。実質の調査最終日だ。アワが見られることを期待したい。8:30朝食に行く。2名加わる。

9:40、6677km、234m。ブハラ大学に向かう。植物学の主任に会う。水生植物を研究している。水を浄化するのにホテイアオイを利用する。タシケントでも働いていて、アカデミーのメンバーである。大学は1年前にできた。ブハラは砂漠地帯だから、熱い、耐塩性、栽培植物も研究したい。塩水を浄化したい。教員養成大学から総合大学になった。11学部、51学科、6000人の学生に1000人の教員。

12:00、6678km、228m。ワタとトウモロコシ畑。トウモロコシは飼料。イネ2ha。トウモロコシ、ヒマワリ少し。70km郊外に行くという。個人でキビを作る人がある、政府は奨励していない。コムギなどの食料増産のために、キビはなくなった、ワタとトウモロコシが多い。

1993-7-16-1

12:32、6702km。222m。1名加えると思ったら、ここで種子を30系統（レニングラード1983、ヴァビロフ研究所のもの）もらって、ブハラに戻るようになった。アワ、トウジンビエ、少し作っていた。主人は不在。

13:15発、帰路。クワ畑はある。ワタ畑が多い。モロコシ1ha。昼食し、ホテルに向かう。休息後に、ブハラ大学の植物学者の家に行く。20:00~23:00夕食をいただく。夫人の肉ジャガとラグマンはたいへん美味しい。須藤君、日比野君はウォッカを浴びて、潰れる。だから言ったのだ。翌日、結局、2時に観光に行くことになった。

1993-7-17

土曜日、快晴、ブハラ

須藤君は回復せず、悪化、高熱。5時、アイロタイシンを飲ませる。風邪ではなく、細菌性の下痢熱と思う。7:00起床。標本整理。9:00からブハラ見学は取りやめる。学生2名は不調。朝食にバザールに行く。10:00標本整理など。13:30階下で待つ。14:00~16:30冬宮、夏宮を見る。あっさり終了となる。19:30夕食後、モロコシの一部をザキール氏と整理する。

須藤君、著しく不調。エリスロマイシン（IT）2錠を飲ませる。細菌性だろう。腹痛、熱38℃少し。もう一泊するかどうか、朝決める。泥酔していた日比野君は午後には回復し、問題なし。ザキール氏はあくびばかりしていて、イライラして当たるので、彼なりに疲れているのであろう。いい性格ではない。

モロコシ、トウモロコシ、および雑穀：①糖含量、飼料としての刈り取り量、種子収量。②耐旱性、耐暑性、耐塩性について共同研究したいというのが、とりあえず話を聞く。

1993-7-18

日曜日、快晴

7:00過ぎに起床、荷物準備。朝食後9:45発、6789km。ブハラからタシケントへの帰途に就く。ブハラ3泊。ホテルの店の女性は大変親切であった。私たちが得体のしれない地元の人々と一緒にいると思って、気を付けるように言ってくれた。大学の先生たちだと言ったら、とてもそうは見えないと言っていた。

来るときに見たサツマイモ畑に見えたのは、カボチャであった。ロバもよく見る。小さいのに苦役に耐えているものだ。ナボイを過ぎる。サマルカンドまで、163km。ラクダ1頭。養蜂10箱。13：23、6982km。カッタクルガン、オマーン氏宅、彼を降ろすと思ったら、ウォッカ5本飲み、本人はまた同乗する。50km近道する道を通っている。

左手に、広大なコムギ畑。右手は何もない。収穫後なのだろう。緩やかな丘陵地帯。ウズベクでは珍しい、ワタ畑がない。きれいな鳥がバスをかすめる。低地に来ると、また、ワタ畑、トウモロコシ畑もある。サマルカンド方向に、薄い山影が見える。都市近郊は果樹園やトマト畑が多い。畑に厩堆肥を少しやっているようだ。左手に鉄道、ブドウ畑が多くなる。そういえば、スイギュウは全くいない。7045km、14：35サマルカンドに入る。膨大な数のスイカがある。シーズンなのだろう。昼食後にウズベク天文台を見学する。16：37発

17：40、オマーン氏降車、4km左側のトウモロコシ研究所に行く。チムール門近くでは蜂蜜をたくさん売っていた。

タシケントまで168km、ワタ畑ばかり。シルダリア地区には入る。タシケントまで115kmあるだろうか。ワタ畑ばかりである。税関で止められる。もうすぐ夕日が沈む。19：48どこまで行くのやら。結局、22時頃にタシケントから18kmの小さな町のホテルに落ち着く。ささやかな夕食、小さなハンバーグ1つと少しのごはんを得て、寝る。明日は息子を連れに行き、タシケントに行くという。あきれきったが、ひどい公私混同ができるものだ。我慢するしかない。私たちの金で、一族が遊ぼうということだ。須藤君は回復してきているようだが、ホテルに行きたがっている。初めての海外旅行で、大変とは思いますが、かなり頼りないことだ。すべてわかっていることだが、情けないことだ。二人とも、もう少し全体で見られるようになってほしいが、まだ無理なんだろう。

北野氏ら4名はもう日本でくつろいでいよう。中込氏はもう2～3日で、出発であわただしいだろう。石橋さんが心配だが、まあ、無事帰国したことであろう。

8：00頃起きる。9：00ゴロゴロしている。7304km、タシケントから24km。10：00ナマルガンへ向かう。途中で朝食、小さな食堂だが比較的衛生的であった。ラグマン、ペリメニ、マンティ、サムサ、パン（フレーブ）があった。M34走行中、右手に鉄道。シルダリアからは40～50cmのコイが釣れる。魚市場がある。小川で釣っている子供が時々いる。大人は稀。イネ1ha、追肥をやっている。トウモロコシ畑はワタ畑よりも多い。モロコシ10a。イネに、アゼマメらしきものがある。両側に、20haほど。

ナマルガンの弟氏の役所に来る。息子の消息を聞くために中に入る。バスで待つ。

ウシ10、ウマ1。左手はアルファルファ、右手はワタの畑。アカシアが多く見られたが、これはロシア化政策だという。左折、タシケントまで、35km。すぐに着いた。キャンプ場、夕方まで待たされた。彼らは食品を買いに行く。この間、湖に入る。彼の兄弟が来る。夕食はたらこスパゲティを食べた。早めに寝てしまった。午後は標品整理を2時間ほどした。子供2名と犬2匹がついてきた。

1993-7-20 火曜日、晴れ

6:00起きて、標本整理する。8:00過ぎに朝食、みそ汁、クラコット、スイカ。9:00引き続き標本整理。午後3時にはリスト完成。水浴後、標本分配始めるも、進展せず、1/4程度で、本日は終わる。残り、2日間で、標本と支払い清算を済ませたい。夕食後、しばらくして寝る。タシケント大学の男子学生1名が連日、こちらの別荘にいて、泳ぎに来ている。旧体制下で、明らかに貧富の格差ができていたのだろう。表面に出にくかっただけだろう。

1993-7-21 水曜日、快晴

7:00起床、収集品リストのコピーを作る。彼らはガソリンを買いに出る。弟さんの事務所に行くという。この数日、また物価が急騰しているらしい。デモもストもないのが不思議だ。暮らしていけるのかな。朝食後、標本の分配。昼食後も続ける。18:00前にすべて終了する。ザキール氏分約260系統。夕食後、21時頃寝る。キンエノコロらしいもの少し、メヒシバは稀に見る。タシケントには水道が流れているところ、湿気っている所に生えている。

1993-7-22 木曜日、快晴

7時頃起きる。朝食。タシケントの人口は200~300万人。サンプルの国名はレニングラード。日比野君は会計処理。一日のんびりと過ごす。

今後の予定: 23日(金) 7時起床、8時出発、9時にホテル。ザキール氏らは物品を研究所に返却する。24日(土) 早朝、SU651W、中込氏を空港へ迎えに行く。25日(日) ザキール氏宅夕食。26日(月) 以降~月末まで。日比野君はザキール氏宅で、保育園に行く。その後、8月1日にウズベキスタンホテル。27日(火) 10時に所長に挨拶に行く。9時に迎えに来る。日時はザキール氏に相談する。許可証をもらう。

コビアコフさんに航空券のことで連絡する。中込氏の予定次第で、テルメズに行く。8月1日以降については相談する。11日ころまでは旅行できる。12~13日: 大使に挨拶、ガイボフシへ挨拶、ザキール氏に物品あげる。

1993-7-23 金曜日、晴れ、一時雨

5:00前に起きて朝日を見る。朝食後タシケントを出る。7613km、7:50頃出発。タシケント市、ウズベキスタンホテルへ向かう。ハウキモロコシ、1a。灌漑用の水車がある。久しぶりに街に出る。アカシアが満開。雲があり、暑くはない。ワタもかなり生長し、開花期に入りそうである。7628km、良好なもので、すでに150cmを超えている。白い花がたくさん咲いている。用水で釣りを若い男がしている。また、警察に止められる。交通違反であった、すでに収穫されたワタ玉が運ばれていく。大都市タシケントへの道は交通量が多い。牛糞堆肥も少し作っている。水田3ha、分けつ中。ワタとアルファルファが大変多い、ハウキモロコシが少しずつある。7645km、左手にバザール、混んでいる。市内に入る。ホテル着7655km。とりあえず、3日分、23~26日、泊まる。学生アルバイト通訳と話す。12:00に17Fへ食事に行く。その後、読書、資料整理。19:30夕食は1Fです。21:00日比野君に叶田さんのスライド一式渡す。特に講義の話がなければ止める。テレビの件もこちらからは言わないことにする。その後、シャワーを浴びて寝る。髪が黒かった。久しぶりの温湯であった。

1993-7-24 土曜日、曇りのち晴れ

北海道利尻方面の地震で、30mの津波があったという。戦後最大、120人余りが亡くなったという。衆議院議員が解散し、自民党は過半数を取れなかったらしい。日本新党が30、社会党は半減、羽田派は別党を作ったのだろう。日比野君の電話による情報。都議選はどうなったのか、興味あるところだ。一月の間に、日本もあわただしいことだ。

6:00に起床、7:00に空港に中込氏を迎いに行く。ザキール氏とアクセレーエフ氏も来てくれる。バウチャーがなく、仮ビザしか取れなかった。9:00昼食後、中込氏は寝る。データ整理、抜けている部分が多い。15時過ぎ、今後の予定を検討してから、インツーリストへ行って交渉。厳しいお婆さんで、結局、明日9時にやってくれることになった。VISAの件も含めてである。日程の調整は複雑なので、あきれているが、何とかやってくれるようだ。

19:00にザキール氏から電話があり、今後のスケジュールの打ち合わせ。8月5, 6, 7日にウズベクTV。所長は27日(火)10時、9時に迎えに来る。20時に17Fで夕食を取る。3人で53ドルくらい。日比野君不調。

1993-7-25 日曜日、曇りのち雨

6:00起きてテレビの原稿書き。8:00朝食後、9:00にインツーリストに行く。その後空港に行って、中込氏のvisaを取る。木俣、須藤分は書き換える。15日以上なので、1回目は30ドル、2回目は50ドル、額は日数で決まる。インツーリスト婦人のメモで、バウチャー不足を証明してもらって、可能となった。バウチャーの力が強いことが不思議な国だ。昼食は外にビュッフェで取る。14:00にイスカデル氏に会い、北野氏らの手紙、荷物預かり証をもらう。リコンファームについて注意が述べられていた。

美術館に行く。所蔵品は多い。韓国のもの展示もある。約50部屋に展示、大使に出会う。19:00にザキール氏の長兄が迎えに来て、ザキール氏宅で夕食を取る。眠くなったので、22時過ぎにホテルに戻る。子供は24時まで遊んでいるようだ。ミュージック・ショップで、ネックレスと指輪を各2個買う。

1993-7-26

月曜日、晴れ

6:30に起床。朝食後、9:00にインツェリストに行って、ウルゲンチのチケットを取る。ホテルの予約で、午前中がなくなる。11:30散歩して、昼食をとる。その後、NA/ICHPUへタクシーで行く。コブロヴァ夫人は出張中で、秘書から返してもらい、ロシアホテル前の、アエロフロートでリコンファーム完了。絵を見に行き、17:00にホテルに戻る。叶田標本の整理。

予定: 9A; インツェリストでバウチャーを作ってもらう。10A; 中込氏サマルカンドへ、Net. Ass. へ行く。コブロヴァ夫人に会って、チケットを返してもらう。11A; 空港に行き、リコンファームを試みる。中込氏のは預かる。ダメならモスクワに電話する。この2つができれば、叶田氏の標本を整理する。19:30夕食後、シャワーして寝る。

1993-7-27

6:00起床、叶田標本の整理。洗濯少し。8:00朝食後、またホテルの予約の確認。8:45ザキール氏来訪。研究所へ行く。所長より6000ドル要求される。いろいろ文句を言うも、4000ドル迄しか下げられず、合計で、8000ドルを支払う。高額に過ぎ、私腹を肥やしたに違いない。アメリカ行きの費用になるのだろう。輸出許可を取るための支払いで、不当だと思うので、領収書に公印を押してもらった。

昼食は近所で済ませ、午後は畑や博物館を見せてもらう。昼に、ブドウ酒用の育種をやっている研究室で飲み、かなり酔って、歩くのがしんどかった。17:00近くになり、ザキール氏の別宅に行き、補足調査と申請種子のリストを作る。種子257系統、標本123枚、合計380とする。18:00アブドラ氏宅に行き、ラグマンを食べる。Triticare育種家も参加する。20:00ホテルに帰る。日比野君はザキール氏宅にとどまる。シャワー浴びて寝る。クリーニング代、3点で3ドル払う。

1993-7-28	水曜日、晴れ	6:00起床、叶田標本を整理、終了。8:00朝食。10:00コピーセンターに行き、 <i>л р о с о</i> をコピーする。12時までかかるというので、隣の映画館に入る。コピーは両面B5で、5100Rくらいであった。IPOの番組(70R)に入ったが、場所が分からずに、3Fに行ってしまった。多分、ムスリムの導師の呪いの場であった。映画は始まらずに、外に出された。結局、ビデオB1の券であったらしく、また買いなおして、映画を見た。SFもので、B級アメリカ映画ホラーもののようであった。コピーを受け取ってから、自然史博物館を探したが、見つからず、帰る。夕方まで、 <i>л р о с о</i> を読み、夕食後、雑談して寝る。この本は良くまとまっていて、面白そうである。
1993-7-29	木曜日、晴れ	7:30起床。8:30に朝食。昨日から換金できなくなった。通貨が変わりつつあるからか。ジュース2本を10ドルで買って、お釣りをRでもらう。ほとんどもうRをもっていない。Russiaで新ルーブルRが出て、1992年以前のもものは使用できなくなっている。換金は停止、物品は売らない。
	1993-7-29-0	医療博物館があった。11:30にホテルに戻る。12:00過ぎに、中込氏が来る。5:30起きで戻り、何も食べていないというので、17Fへ行く。チャイハナもバザールも開いてないという。4~5日は大変らしい。16:00 <i>л р о с о</i> を通読、全訳したい本だ。その後、原稿書きと、中込氏の標本整理。19:30に1Fで夕食。シャシリクとサラダのみ。肉じゃがは5~6人分で、3人では余るという。スープは昼だけ、マンティもない。その後、22:30までワインを部屋で飲む。23:00シャワー浴びて、寝る。サマルカンド、キビはミルク粥にして食べる。中込氏調査。タネ屋では穎つき、香辛料屋では精白粒を売っている。
	1993-7-30	保育園の食事のキビはカーシャにする。肉に添えて食べる。
1993-7-30	金曜日、快晴	5:30起床、イネの穎むき。荷物整理など。8:30朝食1F。9:00に航空券を買う。プハラからはOK、ウルゲンチからはopen、コンピューターが不調という。現地ですぐに記帳してもらう必要がある。その後、市内の主なメドレセを巡る。時間。タクシー10ドル。
	1993-7-30-1	<i>Panicum</i> spp.らしきもの、ホテル近くの、第3のモスクにあった。
		12:30昼食、18ドル。Rルーブルが換金できないので、困る。14:00洗濯後、昼寝。16:00に日比野君ホテルに戻る。ザキール氏も一緒に、UTUの女性が6pmにホテルに来るので、1Fで待っているようにとのことである。TVのPAK, Ms. がザキールさんとくる。30分ほど話したが、4日しかだめだということで、3日にタシケントに戻る努力はするが、辞退することにした。
		19:00過ぎたの、そのまま17Fで夕食、21:00頃部屋に戻る。ショウは1人当たり4ドルという。50ドル換金。この3日間換金できなかった。8日頃に通貨が変わるらしい。1993年以外のルーブルは使用できない。ウズベクはCOMになるのか不明。トルクメニスタンは10月頃、独自通貨にするらしい。

8月4日に帰る。3日に帰る努力はする。だめならやめる。日比野君に3日夜に連絡する。中込氏からバザールで買った色付きキビの精白粒を2系統もらう。カラフルで、恐らく肉などの添え物に使うのだろう。8月5～7日は自由になる。許可書記載分：257種子系統、123標本ということになった。

1993-7-31

土曜日、快晴

5：30起床、荷物の整理。旅行準備。7：30に日比野氏ら荷物を持ち込む。8：00に朝食で、日比野氏はタシケント大学の入試を見に行く。朝食後に1時間寝る。10：30に部屋の予約をして、チーフがいないので、紙に書いて渡す。空港に向かう。タクシー5ドル。11：45にチェックインかと思ったが、12：00かなり過ぎまで待たされる。チェックインしたのは、私たち3名のみで、また機内で待たされる。70人乗りくらいの双発ターボ、ウズベキスタン航空。

4日夜にはホテルに戻る。2シングルルーム、8月4～7日の予約。4夜。チェックアウト、1203、1211、522。中込は6～7日を予約。植物採集、8月6日、タシケントから100kmのチムガン40ドル。サマルカンド100ドル。

15：00過ぎにウルゲンチに着く、タクシー2ドルで良いホテルに行ったが、何も店などが無いので、インツーリストホテルのホレズムホテルにすぐに移動した。17：30夕食（昼食）を取って少し休む。インツーリストは誰もいない。換金できなそうである。飛行機は混んでいなかったの、多分大丈夫だろう。18：30近くの映画館に行く。19：30に帰ってきて、雑談する。22：00頃寝る。蚊がいたので線香を焚く。

1993-7-31-2

タシケント、ホテル近くのバザールの香辛料屋。

1993-8-1

日曜日、快晴

ウルゲンチは低地にある。47m。8：00起床。9：00に朝食。その後空港に行くが、インツーリストに行くように言われ、ホテル近くの事務所に来る。電話で話し、待っていることになったが、誰も現れず、結局、会えるフロートに連れてゆかれた。しかし、日曜日で休みと言われ、翌朝再び、訪れることになった。航空券の変更、ウルゲンチをブハラにする。31～2日、3日間、ブハラに行き、4日にタシケントへ帰る。8月2日はヒワに泊まる。

ウルゲンチからヒワに向かう。ワタ畑が多い。道沿いにはモロコシ畑がある。運河と鉄道を渡る。小さいスイカが路上で販売されている。トウモロコシ畑が次第に多くなる。ヒエ属とエノコログサは点々とある。スイカとメロンが多い。ピンクのギョリュウは時々ある。土壌はかなり塩を噴いている。トマトは多いが、モロコシ畑も少しある。キッチンガーデンには、モロコシ、ヒマワリ、トウモロコシが少しずつある。ここでもワタ畑の縁にはクワが植えられている。用水路にはガマが多い。ホーキモロコシも少しある。用水路にはヤナギ、ポプラ。麦殻堆積が見られるが多くはない。タクシーは100km/hrで快走、良好な道である。湖水近くにはイネがある。ヒワ市街に入る。ワタ畑が多い。新市街か、新しい家が多い。左手に観覧車がある。ヒワ旧市街に着く。

1993-8-1-1

47m、キンエノコロ、サトウモロコシか、かみ跡がある。16：40ウルゲンチに戻るバスに乗る。バス代60R、モロコシは密穂と、疎穂の2型がある。18：00ウルゲンチに着く。ジュースを飲んで、休み。19：30に夕食、21：00のニュース解説を見て寝る。

1993-8-2

7：00起床、8：00に朝食。9：00アエロフロートへ行くが不明。バザールに行く。10：30にまたアエロフロートに行くが、らちが開かず。ホテルの女性に訴えて、電話をしてもらう。結局、ブハラで航空券を買うか、変更する。オープン・チケットはタシケントで返してもらう。これが、アエロフロート事務所との結論。12：00コーラを飲んでから、ヒワに向かう。13：00過ぎに、ヒワのホテルに落ち着く。

ホレズム 太陽の国 土漠の孤都 プラタナスの木漏れ陽 乾いた風の街 ヒワ 煉瓦と泥の住処
メドレセ 精神の府 城壁 ミナレット 土漠の灯台 ブドウ 女性の小指

その後、また内城見学。どこでも入館料25～100R取られる。ミナレットに登る。17：30にホテルに戻る。レストランは閉まっている。

キビはТАРИК、ヒワではТАРИ、ロシアではПРОСОと呼ぶ。カーシャ（ミルク）で食べる。ヒワのバザールでは売っていなかったが、ウルゲンチでは売っていた。夜は門番のお爺さんの好意で、プロフを食べる。ウシの発酵乳とビールは酸っぱかった。その後、21：00過ぎに寝る。水が出ない。

6:00起床。水が出ない。7:00ウルゲンチ行きのバスに乗る。8:00頃着いて、ホレズムホテルで、朝食。9:00に予約した自動車が来ない。10:10発、88115km、25m。ウルゲンチからブハラに向かう。12人乗りのワンボックスカー。自宅に行って、予備ガソリン、タイヤ、ミネラルウォーター4本/500ml。10:27、88117km、14m。市内、ホーキグサが多い。左手、ヒマワリ畑。一人乗り込む、若い男である。店による、牛乳大2、小1、パン1つ買う。初めて、紫のアサガオを見る。キャベツやトマト畑が多い。大面積は、①ワタ、②トウモロコシ、③アルファルファ、④ヒマワリ、⑤モロコシ。大人3人が魚釣りをしている。近郊外は新築が多い。タチアオイは赤、ピンクがよく見られる。ガソリンスタンドに寄る。オイルを買うのか。路傍で、スイカやメロンを売っている。メロンは緑のスイカ型は美味しくない。黄色のラグビー・ボール型が良い。春まきオオムギ3a。

ヒエ属雑草が多く、ウシの餌にしている。クワ畑も点々とある。ギョリュウは時々見かける。両側に見える範囲は、ワタ畑。果樹園もあるが多くはない。水田3ha。街路はクワ、ポプラはまだ小さい。ワタはほとんど開花中。ロバ2。アルファ畑が広い。道側にモロコシ。鉄道を横切る。水田2ha、追肥しない。

水田多い、3ha。他はワタ畑。右手に鉄道が並走する。左は運河、その向こうは土漠、緑地帯は狭くなっている。両側はステップで、畑はない。土は赤茶色をしている。12:20北野氏が言っていたケンタウルが広く播かれているが、大半は枯れている。通路沿いが緑なのは、散水しているからなのか？右手は川か湖水。警察に止められて、パスポート、ザック、検査され、わいろ5000R取られる。税感写真は撮るなど言っている。カーペットが引っかかる。

12:20発、イネ科草本の枯れたものが点々とある。ロバラしきもの1。人家はない。緑はケンタウルくらいだ。細い電線が2本走っている。ヤギが石垣で囲われているので、こんな所にも人が住んでいるのだろう。土表面が薄黄色なのは、雨季にのみ茂ることがあるのだろう。延々と無人の地が続く。人工物は道路だけだ。灌木らしくケンタウルは育っている。1~2mくらい。時々木の下に穴がある。サバクキツネがいるのだろうか。黒い枯れた匍匐状の植物体がある。黒いユルタが2つある。

15:00、イネ科はまだ緑を保っているものもある。140m。地平線まで同じ景色である。人家あり、ロバ、ラクダ各1。ヒツジらしきもの50。人家あり、ウマ3、ヒツジ300、時々、TVの中継所あり。ここはポリス・ステーションだったか、止められなかった。さっきは中込さんの名前が記録された。少し気になるが、情報は流れないだろう。右手に大きな人家がある。ヒツジ300寝ている。細かい土粒の土漠であろう。草地になり、稀に人家がある。人工物の数が少しずつ増加している。15:40ブハラに117km、160m。左手、工場らしきものある。中木が出て来て、小村を通る。羊の群れが3つある、200、男2人にヤギ3~4頭。緑が濃くなってきた。ブハラまで71km、170m。草原が続く。畑作地帯に入る。町だ。モロコシが庭先に少しある。クワが多い。麦刈り跡に、ヒツジが300。ワタ畑がとても多い。アルファルファ。ブハラ近郊に至る。ワタ畑が多い。

ヒマワリは収穫されている。トウモロコシも収穫期か。ブハラまで15km、ワタ畑がとても多い。材木（直径20～25cm）積んだトラック2台。モロコシ50a。17：00過ぎにブハラ市内に入る。88484km、220m
ブホロ・ホテルに着く。18：00に夕食後、屋上のbarに行き、夕陽を眺める。コニャックを飲む。22：00寝る。航空券は買えそう。14pmの便。オープンチケットは空港で払い戻せと、ホテルの担当係が言う。

1993-8-4 水曜日、快晴

7：00起床、荷物整理。8：00朝食、バザールに行く。その後、ホテルで土産物を買う。10：40タクシーで空港に行き、航空券を買う。12時過ぎまで遅延で、ホールで待つ。13：05に乗機、60%座席埋まる。外国人は2名だけ。ブハラ近郊は農地、その周辺は砂漠である。用水路の両側のみが緑地である。幾何学模様を描いているのは、ムギ畑かもしれない。ブハラ～タシケント63ドル。ウルゲンチ～タシケントは結局、タシケントで払い戻しということになった。

左手に大きな湖と見えるのは、緑地帯であろうか。湖で、シルダリアが見えてきた。もうすぐタシケントだろう。方向を左手に取り、振動が多い。人家が多い。14：25空港に着く。15：00過ぎに昼食、17F。資料整理。シャワー。20：00夕食後に、手紙書きなど。23：00頃寝る。

1993-8-5 木曜日、快晴

5：30起床、荷物、資料、スケジュールの整理。8：00に朝食。9：30にインツールスト事務所で交渉。中込分1泊67ドル、日比野分335ドル、合計402ドル支払う。航空券は明日午後以降にもらう。①タシケント～モスクワ、②交換；アルマアタ～タシケント。11：00郵便局に行き、本を発送する。5包 x 3000R、合計15000R支払う。バザールに行き、キビ、スパイス、扁桃を買う。13：30ホテルに戻り、14：30にNAに出向く。

○エアカーゴ、ブリキ缶は別送。本は郵送。○ホテルの支払い、航空券の手配。○輸出許可証をもらう。ザキール氏に電話で依頼し、5枚複写する。6日はチムガン、植物園。バザールと植物採集。

8月13日の予定：11：00NAに来る。1時間ほど記者会見。経費などに関して質問を受ける。8月14日はイスカデルさん、ザキールさん、アブドラさん、アクセレイビッチさん、NAの人も呼ぶのか。

18：30にザキール氏が訪れて、許可書ってもらう。8000ドルの領収書のコピーを2枚要求し、日比野君から手渡す。TVはニュースで2分ほど流すようにするかもしれない。可能だったら電話するとのこと。8月13日は10：00にホテルで待ち合わせて、ザキール氏と一緒にいく。20：00に17Fで夕食、22：00頃寝るが、4回電話で起こされた。

1993-8-6	金曜日、快晴	<p>6：00に起き、発言文を考える。8：30に朝食。10：00から植物園と、複写に行く。動物園も行く。植物園では丁度解説をやっていた。一時間ほど聞いて歩いた。なかなか良い園で楽しめた。技術大学の女性先生が英語で通訳してくださり、おおよそ分かった。動物園にも行ったが、よい状態にはなかった。14：00頃戻り、ホテルで昼食。その後、チケットの交渉。中込氏が戻ってきて、余計に支払っていたので、払い戻しを求めたら、反対にシングル料金を取られてしまった。18：00に電話に行く。19：00夕食17F。20：30会計的相談をして、シャワーを浴びてから寝る。23：00たび重ねて、ギョルから電話、うるさい。</p>
1993-8-7	土曜日、快晴	<p>7：00起床、洗濯、物品やノオトの整理。8：30朝食後、4人で、大バザールに行く。</p>
	1993-8-7-1	<p>キビ：①殻付き粒、②精白粒、カーシャ、③色付き精白粒、パンのトッピング、④粳穀は枕に入れる。赤米は少し売っている。数人。プロフにするが、日常的なもので、特別な日や行事に使うことはない。赤米を多く栽培しているアンディジャンから移入する。</p>
		<p>ナボイ像近くのメドレセに行く。ナボイ博物館は土曜日で、昼までで休館。17：00過ぎにホテルに戻る。19：00TVタワーのレストランに行く。しかし、タワーはもう閉まっていたので、タクシーの運転手に、良いレストランに連れて行くように頼む。レストラン・ソウルに行く。高級レストランで、14ドルと聞こえたが、誰かが40ドルと言い、最終的には100ドル取られると思った。ダンス、歌謡ショーが続き、酒は飲み放題で、どんどん注がれて、際限がなかった。しかし、合計68ドルくらいで、安くてよかった。ホテルで食べるより、安いかもかもしれない。22：30くらいに戻り、シャワーを浴びて寝る。</p>
1993-8-8	日曜日、快晴	<p>7：00起床、原稿書き、荷物準備。ホテル9階、452m。第4旅行、アルマアタ、4泊5日、もう10日もない。9：00朝食、その後、荷物整理。また、支払いについて問題にされて、午前中、中込氏ら費やす。標本リスト作り。12：00日比野君の部屋で待つ。3名は14：00まで本屋などに行く。14：00に昼食して、時間待ち。16：00に空港に向かう。タクシー2000R。丁度、アナウンスがあり、スムーズに機上の人となる。アエロフロートの、音楽入りのイリージョン、国際便だ。</p>
		<p>ばあさんが一人、テルメズと言って座らないで騒いでいる。誰もすぐには相手をしなかったが、もうエンジンは動き始めている。降りないと飛んでしまう。観念したようだ。孫娘らしきがいるが、行きたくないと言っているのかな。18：15離陸、アルマアタ経由、イルクーツク行き。北から南に向かって丘のようなスジ条ができていく。冬の風のせいであろうか。タシケントの北郊外、飛行機はホテル、テレビ塔上空を旋回して飛ぶ。雲海が広がっていることが不思議で、下が見えない。雲が途切れて、ムギ畑が広がる。下降始める。都市はまだ見えないが、整然とした耕作地が広がっている。</p>

もう少しで陽が沈みそうだ。貯水池、用水路が伸びている。デルタ地帯の林になって、集落が見え、下降し、そろそろ空港か。電灯がすでに灯っている。19:25過ぎに、アルマアタ空港に着陸する。カザフ時間では21:25。空港インツーリストのオフィサーに聞きに行ったが、visaは旅行者トランジットの場合は、3日間不要で、ホテルにも泊まれる。これ以上はホテルで相談せよとのことであった。ホテルに向かう、白タクで、5ドル。ホテルは4泊、あっさりOKで、visaについては何も言わなかった。時差2時間あり、丁度11時であったので、レストランは閉まってしまった。階下のbarで、ソーセイジ・パン、カロリーメイト、梅干し、ビール、ジュースを飲食した。22:00過ぎに寝た。

1993-8-9	日曜日、雲あるも晴れ、アルマアタ	5:30 (K7:30) に起床。783m。7:30朝食。明日の自動車を予約。インツーリスト、航空券リコンファームOK。
	1993-8-9-0	13:00過ぎにホテルで昼食、その後、メディアオに行く。タクシー10ドル。エノコログサ、キンエノコロは多い。
	1993-8-9-1	メディアオ1540m~1842m。たくさんの植物があった。カモジグサ、キビ属らしきもの3種あった。 17:30にホテルに戻る。18:00夕食を取る。20:00に寝る。
1993-8-10	火曜日、雲が多い、晴れ	780m、5:20に起床、6:00朝食、7:00に周辺のツアーに出かける。ジーマ運転手24歳、ジーナはガイド。英語ガイドは6時間で120ドル。 7:23発、50513km、ムギの刈跡、春播き小麦はまだ刈り取っていない。ウシ20、トウモロコシ畑が多い。秋ムギの跡地、薄緑色。キャベツ畑が多い。ルートをイッシクに向かう。キビは個人畑で栽培し、コレクト・ファームでは作っていない。プシェノー、カーシャにするキビ。ソバを栽培し、カーシャにしている。野菜は少ししか作っていない。フライした団子を作る。畜産物、肉、ミルク製品が多い。ヒマワリ少し。郊外にダーチャがある。コムギ畑から草地が広がる。トウモロコシが多い。
	1993-8-10-1	50564km、770m。イッシク墳墓の近くの草地。
	1993-8-10-2	バザールでソバを少しもらう。ウマが多い、3、2頭。ホップが少し栽培されている。ウシ20、30頭。
	1993-8-10-3	50580km、751m。コムギ畑周辺。丘陵の裾に沿って走る。カイナル村。ウシ5。
	1993-8-10-4	小バザール、麵棒を買ったところの溝。
	1993-8-10-5	幹線道路に戻る。アルマアタのソバ畑の周辺。 <i>Brassica</i> や <i>Avena</i> が混合。

12：30にホテルに戻る。13：00～14：30バザールに行く。プロフにする：赤コメ1500R/kg、白米500R/kg、ソバ460R/kg。ソバはカーシャにする。10ほどの店で、穀を取ったものを売っている。消化が良いという。本日は開いていたが、穀物店や香辛料店がほとんど見られなかった。

14：30にホテルに戻る。17：00に朝鮮レストランにタクシーで行くも、見つけられずに、カザフスタンホテルの朝鮮レストランに行く。20：00にオトラのホテルに戻る。白タク2ドル。大変親切であった。途中、昼食をご馳走になる。運転手ジーマはウィグル族出身という。塩入ミルクティを飲ませてもらう。伝統的なナン、ピロシキ。叔父はアフガニスタンで戦死した。1歳半の娘が1人いる。本拠地は東トルキスタン。顔立ちが良いことをカザフ人のジーナ（45歳）も認める。彼女の月給は約65000R、姉は医師だという。日本には5回行き、各地を回ったようだ。人柄がよいので、名刺を渡してしまった。

1993-8-11 水曜日、雲あり、晴れ

7:30に起床。8：00朝食を取り、バザールの穀物店を探しに出る。キビは精白粒を少し売っていたのみで、カーシャにすると言う。ソバは良く売っている。穀類はパン屋で、精白または製粉したものを売っている。たとえば、イネ米精白粒、コムギ粉、トウモロコシ粉。9：00にアート・ショップに行くが閉まっていた。歴史博物館はよく整備されていて面白かった。アート。ギャラリーに行ったが、技巧はうまいが、暗い。民族博物館は工事中であった。

14：00頃、ホテルに戻り昼食。その後、2人はエクスヒビションに行く。私は疲れたので、寝ることにする。標本整理をする。19：00ホテル・カザフスタンの少し先、レストラン・シルクロードに行く。120ドルくらいで高かったが、料理はまともであった。22：00前に帰ってきて、シャワーを浴びて、寝る。

1993-8-12 木曜日、晴れ

7：45起床。8：30朝食、その後、荷物を2Fのリネン室に預け、チェックアウトして、ファイン・アート博物館などに行く。9：30、FAMでは、キビやネギの種子を画面に散布した、同一画家の2枚の絵があった。1992年作。一方は無着色、他方は何色かが使われていた。その他、カザフスタンの日常生活や歴史を示す絵があり、興味深かった。カザフ人の手になる力作があり、特に、丸太からの彫刻数点が面白かった。木の精を浮き出させたということだろう。15：00前に、ホテルに戻り、荷物を取って空港に向かう。タクシーをしばらく待つ。10ドル。17：15まだ離陸しない。17：47離陸。空港の草地にはシソ科の紫花が多い。キルギスの山々を後にする。

待合室で、大阪市大経済学部の田畑さんに会う。ロシア経済をやっているようだ。市大では1000万円の研究費を国際研究に向けている。500万円、4件中2件が通り、折半して、半分で着て、来年は日本に呼ぶという。

17:45に空港を出てホテルに向かう。空港ではいち早くバスに乗ったので、一般出口に迷い込み、検査料を払うかでもめる。強要されると腹立たしい。18:00過ぎにホテルに着いたが、日比野君はおらず、3人で夕食を17Fでした。22:00近くになって、彼と連絡が取れ、荷物を移動し、雑談して寝る。23:00、3amの頃、17Fの歌のために目覚める。上がちょうどステージらしく、最悪の部屋であった。

タシケントでは地震が2回、1分くらい揺れたそうだ。雷、大雨もあった。記者会見は、ザキールさんと所長も呼ばれており、別々に行くとの電話があったそうだ。

1993-8-13 金曜日、晴れ

6:30に起床し、シャワーを浴びる。荷物整理を始める。8:00朝食後、原稿を整理する。10:00にNAに向かう。12:25に着き、農業アカデミーの副総裁に会い、ブドウ酒会社に仲介することを約束する。{注:後日、日本の大手ワイン会社に仲介、遠方なので困難ということで断られた} 12:20に記者会見は終了。植物園長、ガイボフ会長、副総裁、研究所長他、記者らしき人が3~4名出席。

1993-8-13-1

市街の庭畑にホーキモロコシが栽培されていたが、リストに入れていない。

12:30日本大使館に挨拶、歩いて10分くらいの所であった。その後、ナボイ駅で、焼きうどんを食べた。メドレセに行き、さらに本屋に行って、ホテルに戻る。16:00荷物整理を始める。航空券確保。西日が当たり、暑い。汗を滴らせながら、努力する。20:00に1Fで夕食。4人とも、バラを歌手にあげたりして、楽しむ。その後、1:30までINCHについて雑談する。

1993-8-14 土曜日、晴れ

7:00過ぎに起床。再び、荷物整理を始める。鐘のよくなる日だ。8:30ザキール氏から電話で、また、テレビの話が出て、昼食会後ということになり、断り切れなかった。9:00朝食、さらに荷物整理。TV挨拶原稿書き。目途がついて、ノートを書いて、昼寝する。12:30まで大丈夫。明日のトランスファー6:45を頼む。13:00~15:00NAからは来なかった。学生3名で、合計11名であった。TV局に行き、外で録画。17:00、3人はナボイ劇場、一人ホテルに戻って、荷物整理、シャワーを浴びる。

1993-8-14-1

①*Panicum miliaceum* 黒褐色穀粒、②*Panicum miliaceum* 穎付き混合、③*Panicum miliaceum* ヒマワリ、コムギ混合、鳥の餌、④*Amaranthus* 鳥の餌。

- 1993-8-15 日曜日、晴れ
- 20：00アブドラさんがワインをもってくるのを待つ。レセプションで、3人分のパスポートを返してもらい、待っていたら、オペラ座から戻ってきた。10%の入りであったが、大変に立派な施設と内容であったという。ナボイ劇場は、敗戦後、日本人捕虜が建てたのだと聞く。アブドラさんがワインをもってきたが、ビンが割れて少し漏れていたのので、水筒に入れて、みんな飲んでしまった。17Fに行き、夕食、雑談し、22：00過ぎに寝る。
- 2：30以降、目が覚めてしまった。鐘が鳴り、うるさい。時計台、15分毎だ。
- 5：30過ぎに、起床、出発準備。6：30にチェックアウト、空港に向かう。イスカンデル氏に迎えらる。パンと蜂蜜をもらう。荷物は120kgで、35kg超過、調査ということで、イスカンデル氏の交渉により、30%off、44ドルにしてくれた。
- 8：40頃、乗機する。出発前に、座席のことで、大騒ぎである。決まっておらず、どこに座ってもよいはず。わからないことばかりである。職員が制御して、何とか収まる。引いたら路頭に迷いそうだ。なぜどけと言われるのか不明。別の人には座席番号があるのだろうか。わからない。旅情に耽けられるようなところではない。なんでも自己主張するか、拒否し続けるか、他にないのだろうか。服従したら、行き先がなくなる。これが中央アジア史かもしれない。あるいは社会主義の続きの順応だろうか。
- 9：15頃離陸する。4時間ほどでモスクワに着く。しかし、出口が不明で、もたつく。やっとトランスファーに来てもらって、ホテルに辿り着く。空港ホテルは40kmくらい。13：00過ぎに、ホテルに来て、明日の手続きをして、昼食をとる。日比野君は気分が悪いと言って食べない。自由行動とする。
- 1993-8-15-0
- クレムリン周辺を散歩して、17：00頃に戻る。GFでコーラを飲む2ドル。クレムリン城壁下に、*Rorippa* spp. がたくさん咲いていた。*R. sylvestris*だろうか。ヒナギクは芝地に、雑草として白い花を咲かせていた。20：00にホテルで、夕食、その後雑談。22：00頃寝る。中込氏とtwinであったが、良い部屋である。
- 1993-8-16 月曜日、晴れ
- 3～4：00に一度目覚める。7：00起床。8：00朝食後、換金に回り、結局、本屋でできて、本も買った。キャビアを買いに行ったが、ドルではだめで、また本屋に行って、換金して、6個買う。12時にチェックアウトして、荷物を預ける。その後、郵便局をはしごしても、本は送ることができずに、持って帰ることになる。地下鉄で移動、タシケントの方が、立派な駅であった。美術書は購入許可がいるらしい。よくわからずじまいであった。街中の小さなカフェでシーチキン・ライスを食べる。

1993-8-16-0

13：00頃、ホテルに戻り、解散。人類学、動物学博物館へ行くが休みであった。レーニン博物館は荷物を預けねばならないので、入館を止めた。玄関の花壇には多種の雑草が茂り、*R. islandica* もあった。大きな花は直径1cmで、実はごくまれにしかついていなかった。

14：30ホテルに戻り、コークを飲み、土産にマトリョーシカを買った。ロビーで休む。モスクワホテルのポストで、航空便が使えるらしいとのことで、出しに3人が行く。しかし、ロシアの美術書に関しては、許可がいるらしい。結局、取れるかどうか不明のようだ。16：00ホテルから空港に向かう。荷物が多くて、多大のエクセス料金を取られる。32ドル/kg。120kg x 3個口、3200ドルに値切った。また、キャビアには税金がかかるという。30ドル取られたが、ポケットに入ったのだろう。19：20離陸、夕日が沈む。左手、ずっと雲海の上、一度だけ、燈が見えた。しばらくして、夕食が出た。浅い眠り、大変に狭くて、いやになる。

1993-8-17

火曜日

2：50朝食。9：00過ぎに東京に着く。手続き後に昼食。採集品は植物防疫所に預ける。高木先生は不調とのこと、中込氏の婚約者、叶田さんが出迎えてくれた。コーヒーを飲んだのちに、13：16の成田エクスプレスに乗った。

参考

1992年10月23日

ウズベキスタン国際交流団体連合会（政府外部団体）の会長、ガイボフ氏はウズベキスタン共和国文化大臣、来年4月に福島に招待する。音楽、医療シンポジウムの開催。中央アジアに日本人墓地がある。タシケント大学は3年前に日本語教室ができ、学部になるかもしれない。タシケント植物研究所、目的：調査協力の希望。大学の専門家を紹介してほしい。大学間の研究交流がしたいなど、計画書概略を作成して送る。11月16日～12月14日に来日、タシケント大学医師2名、日本語教室教授1名、学生6名が来る。12月4日～14日、保健省から。

JTクロスカルチャー大賞および財団法人森とむらの会による助成を受けた。